ONKYO®

デジタルオーディオ・ソフトウェア

CarryOn Music

Ver. 4.10 for Windows

取扱説明書

CarryOn Musicは、Windowsをご利用の場合にお使いいただけるソフトウェアです。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる所に大切に保管してください。

特長

■ 世界初！Gracenote（グレースノート）社の「MusicID（ミュージック）」技術に対応

世界最大の楽曲データベースCDDBを運営するGracenote社の新技術「Gracenote MusicID」に対応。レコードやカセットテープなどからパソコンに取り込んだアナログ音源もCDリッピング（CDからパソコンへの録音）と同様の手順で簡単に楽曲情報を取得することが可能になりました。
※録音レベルが低い場合や、ノイズが多い場合などには波形データが認識できない場合があります。

■ 外部録音から編集、楽曲情報取得、データベース登録まで快適なLINE PANEL

パソコンに接続されたオーディオ機器からの音源の取り込みに使用するLINE PANELでは、音楽信号を検知すると同時に録音スタートする「シンクロREC機能」、入力信号をリアルタイムでMP3などで録音する「ダイレクト変換録音」、曲間の無音部分を検知する「曲分割機能」を搭載しています。また、ノイズを軽減させる「ノイズリダクション機能」、録音レベルを適正化する「ノーマライズ機能」に加え、「MusicID」に対応して楽曲情報を取得することが可能になり、録音、編集、データベースへの登録まですべての作業が快適に行えます。

■ 24bit/192kHzに完全対応＆多彩な対応フォーマット

24bit/192kHzの音楽データの再生および録音に対応しました。

■ 操作性の向上を図ったパネルデザイン

マウス動線を分析して操作ボタンの配置を見直し、使用頻度の高い操作ボタンはL字型に配置しました。また、リスト幅を拡大することにより、楽曲名が見やすくなりました。さらには質感を高めた色合いによるデザインを採用するなど、さらなる操作性の向上を図りました。

特長

- WAVIO AV SYSTEM、CarryOn Master、CarryOn Musicの名称およびロゴはオンキヨー株式会社の商標です。CarryOn Musicは、(株)デジオンと共同開発されたソフトウエアです。
- Microsoft®、Windows®、Windows®XP、Windows®2000 Professional、Windows Media、Windowsロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

- Windowsの正式名称はMicrosoft Windows Operating Systemです。
- Intel®、Pentium®、Celeron®は、Intel Corporationの登録商標です。
- DigiOnの名称およびロゴは株式会社デジオンの商標です。
- CDDB®およびCDDB2®は米国Gracenote™社の商標です。
- Music IDの名称はGracenote™社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Partial software replication technology by Prassi Europe SARL/EasySystems Japan Ltd.

♪ **音のエチケット**

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には、窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

箱をあけたら、まず

使ってみよう

いろいろな使い方

録音と編集

目次

DISKパネルを使いこなす

こんなこともできます

その他

パソコンの接続を始める前に

必要なパソコンのシステム構成

Windows 2000* Professional/XP*が正常に動作するパソコンで下記の要件を満たすもの
*システム管理者（Administrator）でのみ、使用可能です。

- Intel® Celeron® 800MHz以上または相当するCPU（Intel® Pentium® III 800 MHz以上推奨）
- 40MB以上のハードディスク空き容量（アプリケーションのインストールに必要）
- 128MB以上のRAM
- PC/AT互換のPCIバスまたはUSB接続のサウンド周辺機器
- CD-ROMドライブ
  ソフトウェア、ドライバをインストールするために必要です。
  CD-TEXTをご使用になる場合は、対応のドライブが必要になります。
- High color、800×600ピクセル以上
- USB（1.1以上）ポート

Windowsについて

Windows日本語版が現在の状態で正しく起動できることを確認してください。

ご注意

必要な動作環境を満たすパソコンであっても、パソコンシリーズ固有の設計仕様やお客様の使用環境の違いにより、本製品の動作が正常に行われない機種があります。本製品の制限事項や動作確認情報についての詳細は、当社ホームページにてご確認ください。

著作権について

音楽（外国の楽曲を含む）は著作物として著作権法により保護されています。市販の音楽CDや放送される音楽は、個人で楽しむ場合に限り複製（ミュージックファイルを作成）することができますが、インターネットのホームページ等にMP3・WMA・WAVE・OGG Vorbisなどの音楽データを掲載したり、作成した音楽データを私的範囲を超えて配布・配信する行為は著作権者（レコード業界を含む）に無断で行うと著作権法に違反することとなりますので、十分にご注意ください。

本製品をお使いいただくにあたって

本製品をお使いいただくにあたり、下記注意事項をお読みいただき、正しくお使いください。

- 本書は、特に断りのない限り、Windows XPの操作をもとに書かれています。
- 本書は、マウスやキーボードの使用方法など、Windowsの基本的な操作についてすでにご存知であることを前提に書かれています。
- 本製品を運用した結果の影響については一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、誤操作、不具合により生じた損害などの純粋経済損失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、将来、予告なく変更されることがあります。
- 本書の一部または全部を無断で貸し出し、転載することは固くお断りします。

ソフトウェア使用許諾契約について

本製品に含まれているソフトウェアを開封される前に必ずお読みください。
本製品に含まれているソフトウェアを開封されると、本契約の内容を承諾したことになります。本契約の内容に同意できない場合は、ソフトウェアのセットアップ（インストール）を行わないでください。

使用許諾契約書

本使用許諾契約書（以下、本契約書）は、オンキヨー株式会社（以下、弊社）が提供するソフトウェアと、それに付属するマニュアルなどの印刷された資料に関する使用条件を定めるものです。

第1条　（定義）

1. 「本ソフトウェア」とは、本契約書とともに提供されるソフトウェア（製品名「CarryOn Music」ライセンス数1）、フォント、チュートリアルファイル、ヘルプファイルなどの使用方法を説明したデータなどデジタル情報の一部または全部を指します。なお、本ソフトウェアに含まれる第三者の著作権に関しても、本契約書が適用されます。
2. 「関連資料」とは、本契約書とともに提供されるマニュアルなどの印刷された資料を指します。
3. 「お客様」とは、本契約とともに提供された本ソフトウェアを含む製品を購入し本契約書に同意いただいた個人または法人を指します。

第2条（使用条件）

1. お客様は、本ソフトウェアを1台のコンピュータにセットアップ（インストール）してご利用いただけます。
2. お客様のうち特定のただ一人が使用するコンピュータが複数ある場合には、本ソフトウェアを同時に使用しないという条件の下、特定の個人ただ一人が使用するコンピュータに限り複数セットアップすることができます。
3. 本契約書は、本ソフトウェアの不具合修正などの目的で改訂したソフトウェアに対しても適用されるものとします。ただし、改訂されたソフトウェアと改訂前のソフトウェアは同一のコンピュータにセットアップされている場合に限ります。

第3条（制限）

お客様は、下記の項目を行うことはできません。

1. 本契約書に定めのない、複数コンピュータへのセットアップ（インストール）または複製（コピー）。
2. 関連資料の複製（コピー）。
3. 本ソフトウェアに含まれるプログラムの改変またはカスタマイズ、リバースエンジニアリング。
4. 本ソフトウェアの第三者への再配布、再使用許諾。
5. 本ソフトウェア（複製物を含む）の貸与（レンタル）、疑似レンタル、中古品としての販売、譲渡。
6. 本ソフトウェアをネットワークコンピュータやサーバーから第三者が複製またはダウンロードできる状態にしておくこと。

前項までの規定は、本ソフトウェアを改訂した製品をご購入した場合にも継続して適用されます。

第4条（保証範囲）

1. 弊社は、本ソフトウェアまたは関連製品に物理的な瑕疵がある場合、お客様がご購入後30日間に限り、弊社の判断に基づき交換いたします。ただし、地震、火災などの天災もしくは戦争による破損、または、お客様のご購入後の故意、過失、誤った使用によって生じた破損についてはこの限りではありません。
2. 弊社は、本ソフトウェアの機能がお客様の使用目的と適合することを保証するものではありません。弊社は、本製品の物理的瑕疵について保証するものであり、本ソフトウェアまたは関連資料の使用または使用不能から生ずる直接的または間接的被害については一切責任を負いません。
3. 弊社は、本ソフトウェアを使ってお客様が行ったいかなる行為についても、その責任を負いません。

第5条（期間）

1. 本契約は、本契約が成立した時点、すなわち本ソフトウェアをセットアップ（インストール）した時点に始まり、お客様が本ソフトウェアの使用を停止するまで有効とします。お客様は、本ソフトウェアの使用を停止した時点で、本ソフトウェアおよび関連資料の一切を破棄するものとします。
2. お客様が本契約書に違反した場合は、本契約を解除してお客様の本ソフトウェアの使用を停止させることができます。弊社が、本ソフトウェアの停止を通知した場合には、お客様は速やかに本ソフトウェアおよび関連製品の一切をお客様の費用負担で弊社に返却するものとします。

第6条（一般条項）

本契約書に関して生じた紛争については、大阪地方裁判所を第一審の管轄裁判所とします。

セットアップする

動作環境を確認したら、CarryOn Musicのセットアップをはじめましょう。

ご注意

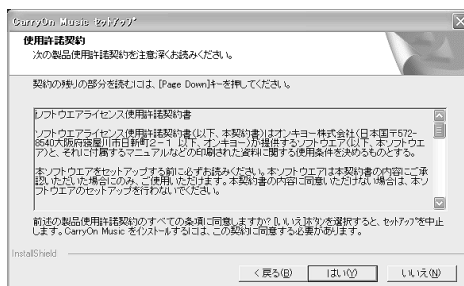
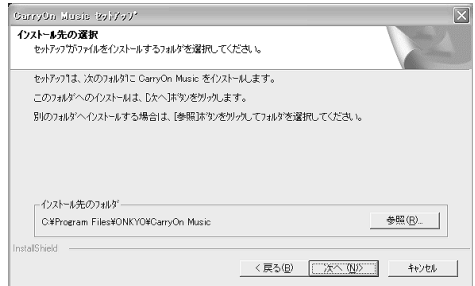
- 他のアプリケーションが起動しているときは、すべて終了させてください。
- ここでは、Windows XPの画面で説明します。その他のOSでも操作手順は同じです。
- 以前に弊社製品をお買い上げになり、すでに他のバージョンのCarryOn　Musicをご使用の場合は、本セットアップを始める前にアンインストール（完全に削除すること）してください。（10ページ参照）

インストールする

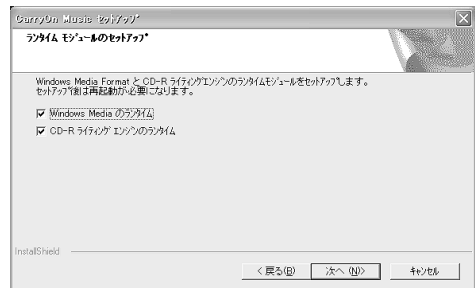
1. 「ソフトウェアのインストール」をクリックしてください。

画面の手順にしたがってインストールを始めます。

2. 「CarryOn　Music用のInstallShield Wizardへようこそ」の画面が表示されますので、［次へ］をクリックし、使用許諾契約の内容を確認します。

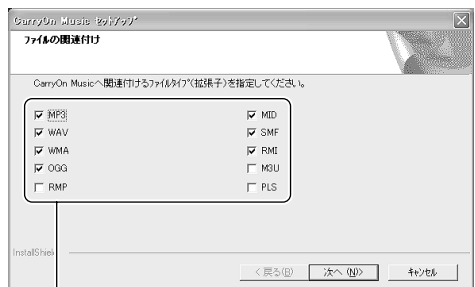
3. 使用許諾契約をお読みになった上で［はい］をクリックします。

4. インストール先のフォルダを選択し、［次へ］をクリックします。

5. 「ランタイムモジュールのセットアップ」画面が表示されます。

WMAファイルを使用しない場合は［Windows Mediaのランタイム］のチェックを、CarryOn MusicのCD-Rへのライティング機能を使用しない場合は［CD-Rライティングエンジンのランタイム］のチェックを外してください。わからない場合はそのままでかまいません。

［次へ］をクリックします。

6. 関連付けするファイル形式を選びます。

関連付けしておくと、ミュージックファイルをダブルクリックするだけで、自動的にCarryOn Musicが起動して、曲の再生が始まるので便利です。

* ミュージックファイルの関連付けは、インストール後、Setting画面でもできます。（72ページ参照）

［次へ］をクリックします。

関連付けるファイルタイプにチェックマークを入れます。

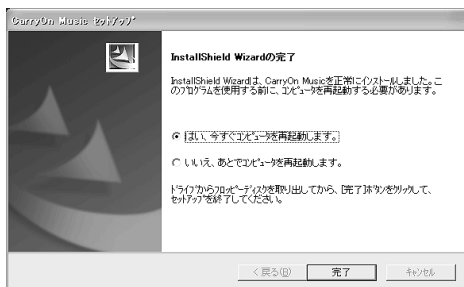
7. ショートカットの作成画面のメッセージに従います。

ショートカットが不要な場合はチェックをはずしてください。

［次へ］をクリックします。

8. セットアップの完了画面が表示されます。

［完了］をクリックします。

「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選んだ場合は、コンピュータが再起動します。

アンインストール（削除）するには

1. **CarryOn Musicが起動していないことを確かめます。**
   起動しているときは、［⏻］をクリックして終了させてください。
2. **パソコンの［スタート］→［コントロールパネル］をクリックします。**
3. **［プログラムの追加と削除］をクリックします。**
4. **［CarryOn Music］をクリックします。**
5. **［変更と削除］（もしくは「追加と削除」、「削除」などが表示されます）をクリックします。**
6. **確認のメッセージが出ますので、［OK］（もしくは「はい」）をクリックします。**
7. **［完了］（もしくは「OK」）をクリックします。**

まず使ってみよう

起動するには

お好きな方法で起動してください。

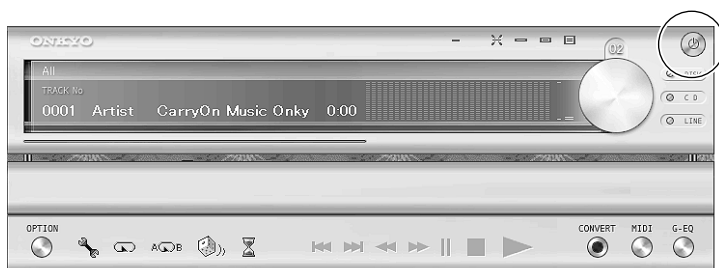
ショートカットをダブルクリックして起動する

CarryOn Musicをインストールすると、デスクトップにCarryOn Musicのショートカットが作成されます。このショートカットをダブルクリックすると、CarryOn Musicが起動します。

「スタート」メニューから起動する

［スタート］→［すべてのプログラム］（もしくは「プログラム」）→［CarryOn］→［CarryOn Music］を選択すると、CarryOn Musicが起動します。

終了するには

操作パネルの［⏻］をクリックすると、CarryOn Musicが終了します。

プレーヤーのサイズを変更するには

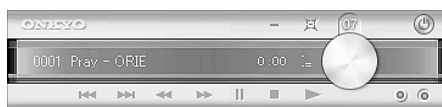
画面右上のサイズ変更ボタンをクリックします。

DISKパネル ...... 5段階に変更できます。
CDパネル .... 5段階に変更できます。
LINEパネル .... 3段階に変更できます。

（最小化ボタン：画面からパネルが消えます）

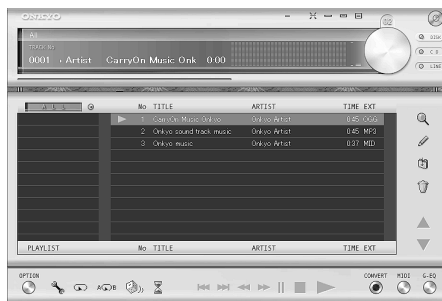
元の画面に戻すには、タスクバーの
［CarryOn Music］をクリックします。

（ミニウィンドウ/ノーマルウインドウボタン）

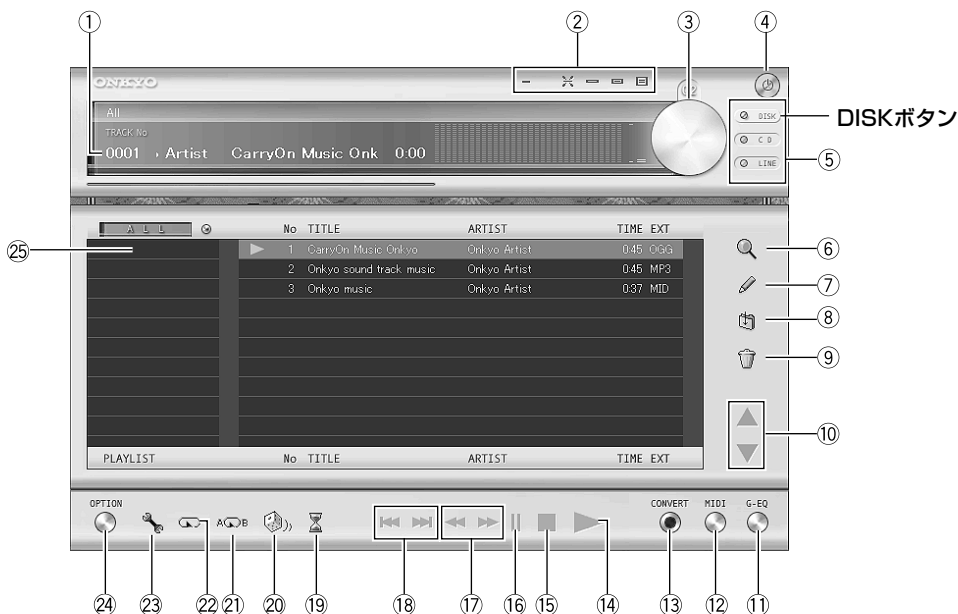
元の画面に戻すには、 ボタンをクリックします。
この画面では、いくつかのサブパネルは表示されません。

（ノーマルウィンドウボタン）

標準サイズの表示になります。

（ワイドウィンドウボタン）

ワイドサイズの表示になります。

（フルウィンドウボタン）

フルサイズの表示になります。
この画面では、いくつかのサブパネルは表示されません。

画面をより大きく表示させたいときは、Windowsの設定で、画面サイズを800×600に設定し、タスクバーを「自動的に隠す」に設定すると、ワイドサイズ、スーパーワイドサイズをディスプレイ画面いっぱい表示させることができます。（一部液晶ディスプレイでは、画面が大きくならないものもあります。）

DISKパネルを使ってみる

ディスク

DISKパネルの名称とはたらき

① 曲番、曲数などを表示します。
② パネルの大きさを切り換えます。
③ 音量を調整します。
④ CarryOn Musicが終了します。
⑤ DISKパネル、CDパネル、LINEパネルが切り換わります。
⑥ ［ライブラリ検索］ダイアログボックスが表示されます。
⑦ ［プロパティ］ダイアログボックスが表示されます。
⑧ ［追加］ディスクライブラリに曲を追加します。
⑨ ［削除］ディスクライブラリの指定した曲を消去します。
⑩ プレイリストの指定した曲の曲順を上げ下げします。
⑪ G-EQパネルを開きます（25ページ参照）。
⑫ MIDIパネルを開きます（23ページ参照）。
⑬ ［CONVERT］（変換）パネルを開きます。
⑭ 再生します。
⑮ 停止します。
⑯ 一時停止します。
⑰ ◀◀/▶▶：早戻し／早送りします。
⑱ I◀◀/▶▶I：曲を前後にとび越します。
⑲ ［経過時間／残り時間］表示が切り換わります。
⑳ ［シャッフル］曲を順不同に再生します。
㉑ ［A－B区間］A－Bリピートモード（指定したA－B間をくり返し再生）になります。
㉒ ［1曲／全曲リピート］リピート再生をします。
㉓ ［セッティング］環境設定の画面が表示されます（69～73ページ参照）。
㉔ 操作メニューが表示されます。
㉕ ミュージックライブラリとプレイリストが表示されます。

ミュージックファイルを聞くには

詳しくは54ページへ

1. CarryOn Musicの操作パネルで、［DISK］をクリックします。

サンプル曲が入っています。

2. ［▶］ボタンをクリックしてミュージックファイルを再生します。

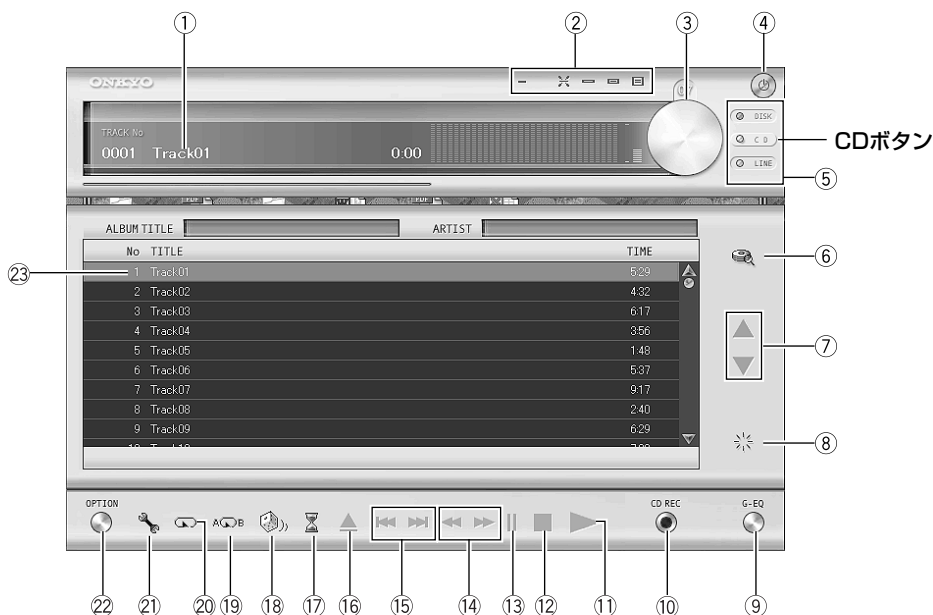
CarryOn Music ver.3.50から今回アップグレードしたお客様で、以前のライブラリ情報をそのまま利用したい場合は、以前の保存場所から新しい保存場所へコピーすることによってご利用いただくことができます。
CarryOn Music ver.4.10をインストールした後すぐに、旧バージョンをインストールしたフォルダ内のファイルすべてを、今回のフォルダへコピーします。保存場所は、一般には下記のようになっています。

旧バージョンのファイル保存場所
C:¥Program Files¥ONKYO¥CarryOn Musicの下のMyDataフォルダ内

新バージョンのファイル保存先
C:¥Documents and Settings¥<ログオンユーザー名>¥My Documents¥の下のCarryOn Musicフォルダ内

ただし現在のライブラリが上書きされますので、CarryOn Music ver.4.10インストール直後に自動登録されたサンプル曲などの登録情報は上書き消去されてしまいます。サンプル曲はCarryOn Musicをインストールしたフォルダ（一般には、C:¥Program Files¥ONKYO¥CarryOn Music）の中にあるSampleフォルダ内に格納されています。再度サンプル曲をライブラリに登録される場合はDISKパネルにドラッグ ＆ドロップ（58ページ参照）して登録してください。

CDパネルを使ってみる

CDパネルの名称とはたらき

① 曲番、曲数などを表示します。
② パネルの大きさを切り換えます。
③ 音量を調整します。
④ CarryOn Musicが終了します。
⑤ DISKパネル、CDパネル、LINEパネルが切り換わります。
⑥ ［CD TEXT］CD TEXTまたはCDDBより、音楽CDの情報を取得します。
⑦ 指定した曲の曲順を上げ下げします。
⑧ ［すべて解除］曲順の上げ下げを解除します。
⑨ G-EQパネルを開きます（25ページ参照）。
⑩ CD-ROMドライブに入れた音楽CDの録音を開始します。
⑪ 再生します。
⑫ 停止します。
⑬ 一時停止します。
⑭ ◀◀/▶▶：早戻し／早送りします。
⑮ I◀◀/▶▶I：曲を前後にとび越します。
⑯ CDを取り出します。
⑰ ［経過時間／残り時間］表示が切り換わります。
⑱ ［シャッフル］曲を順不同に再生します。
⑲ ［A－B区間］A－Bリピートモード（指定したA－B間をくり返し再生）になります。
⑳ ［1曲／全曲リピート］リピート再生をします。
㉑ ［セッティング］環境設定の画面が表示されます（69～73ページ参照）。
㉒ 操作メニューが表示されます。
㉓ CDに入っている曲を表示します。

* コピーコントロールCDなどの著作権対応した音楽CDでは再生できない場合があります。詳細はお持ちのCD-ROMドライブメーカーにお問い合わせください。

CDパネルを使ってみる

音楽CDを聞いたり、録音するには

詳しくは20、31ページへ

1. 音楽CDをCD-ROMドライブにセットします。

2. CarryOn Musicの操作パネルで、［CD］をクリックします。

3. 再生する場合は、［▶］ボタンをクリックします。
   録音する場合は、［CD REC］ボタンをクリックします。

CDDB機能を使うと自動的にタイトル取得ができて便利です（26ページ参照）。

LINE(ライン)パネルを使ってみる

LINEパネルの名称とはたらき

① 曲番、曲数などを表示します。

② ハードディスクの空き容量を表示します。

③ 入力レベルを表示します。

④ パネルの大きさを切り換えます。

⑤ ミュージックファイルの保存ファイル形式を選びます。

⑥ 音量を調整します。

⑦ CarryOn Musicが終了します。

⑧ DISKパネル、CDパネル、LINEパネルが切り換わります。

⑨ 作業中のファイルを保存します。

⑩ 選択したミュージックファイルを開きます。

⑪ 新しいファイルを用意します。

⑫ MusicID機能がはたらきます。

⑬［プロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

⑭［録音タイマーの設定］録音時に終了時刻を設定します。

⑮［カーソルの移動］設定位置を数値で指定できます。

⑯［マーカーの追加］編集中の曲を分割するときにクリックしてマークを付けます。

⑰［マーカーの削除］付けたマークを取り消します。

⑱［縮小／拡大］波形モニターを拡大／縮小できます。

⑲ EFFECTパネルを開きます（44ページ参照）。

⑳ RECORDINGパネルを開きます（36ページ参照）。

㉑ シンクロ録音状態になります。

㉒［録音］録音／録音待機状態になります。

㉓ ▶: 再生します。
■: 停止します。
◀◀/▶▶：早送り／早戻しします。
I◀◀/▶▶I：曲を前後にとび越します。

㉔ 波形モニターを表示します。

㉕［A−B区間］A−Bリピートモード（指定したA−B間をくり返し再生）になります。

㉖［セッティング］環境設定の画面が表示されます（69〜73ページ参照）。

㉗ 操作メニューが表示されます。

他の機器から録音するには

詳しくは35ページへ

1. CarryOn Musicの操作パネルで、［LINE］をクリックします。

2. RECORDINGボタンをクリックし、レコーディングサブパネルを開きます。

3. 録音する機器の入力ソースを選択します。

入力ソースの詳細な情報については、ご使用のサウンドボードなどの取扱説明書をご覧ください。

インジケーター　レコーディングサブパネル　入力ソース

4 録音ボタン［●］をクリックします。

5. 入力ソース（音源）を再生します。入力ソースの再生に同期して録音が始まります。

初期設定では、SYNCHROインジケーターが黄色く点灯しており、シンクロ機能（入力ソースの再生に同期して録音を開始する機能）が働いています。この機能を使わず手動で録音を始めるときは、SYNCHROボタンをクリックしてインジケーターを消してください。

6. 録音が終わったら停止ボタン［■］をクリックし、［SAVE］で保存します。

再生する

基本的な再生のしかた

ここでは音楽CDを再生し、基本的な再生操作を覚えましょう。

1. 音楽CDをCD-ROMドライブにセットします。

2. デスクトップの［CarryOn Music］をダブルクリックします。

デスクトップにショートカットがないときは、タスクバーの を右クリックしてポップアップメニューから起動する、もしくは、［スタート］→［すべてのプログラム］（もしくは［プログラム］）→［CarryOn］→［CarryOn Music］をクリックします。

3. ［CD］をクリックします。

CDパネルに切り換わります。

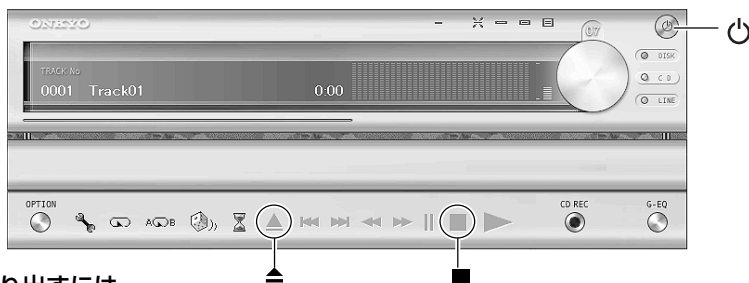
4. ［▶］をクリックします。

1曲目から再生が始まります。

5. ○をドラッグして、音量を調節します。

最大音量（20）まで上げても、音量が極端に小さい場合は、Windowsのボリュームコントロールを調整してみてください。

6. 再生を停止するには、［■］をクリックします。

最後の曲まで再生したときは、自動的に停止します。

音楽CDを取り出すには

［⏏］をクリックします。

CarryOn Musicを終了するには

［⏻］をクリックします。

いろいろな再生のしかた

再生方法には、次の4種類があります。CDパネルまたはDISKパネルで操作します。

■ 好みの1曲をくり返し再生するには

くり返したい曲の再生中に［1曲／全曲リピート］をクリックして、上部に“ ”を表示させます。

■ 全曲をくり返し再生するには

再生中にパネル下の［1曲／全曲リピート］を2回クリックして、上部に“ All”を表示させます。

■ 指定した区間（A－B間）をくり返し再生するには

1. 再生中に、くり返し開始位置で、［A－B区間］をクリックします。

上部に“A”と表示されます。

2. くり返し終了位置で、［A－B区間］をクリックします。

上部に“AB”と表示され、A－B間をくり返し再生します。

A－Bリピート再生を解除するには
パネル下のABをくり返しクリックして、表示を消します。

■ ランダムに再生するには

再生中に［シャッフル］をクリックして、上部に“ ”を表示させます。

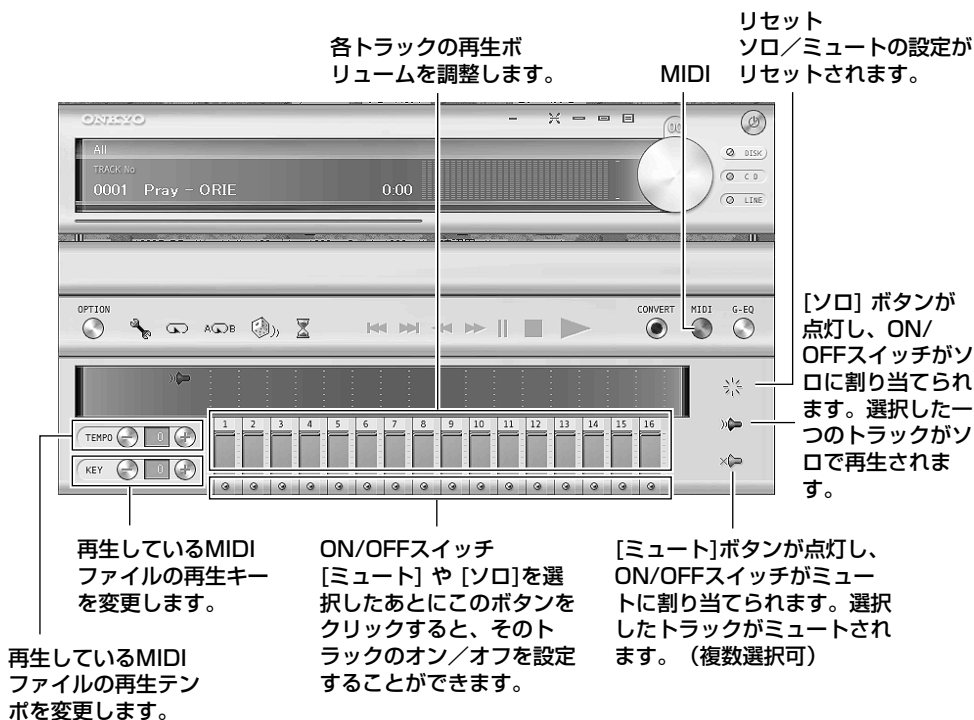
ランダム再生を解除するには
［シャッフル］をくり返しクリックして、表示を消します。

■ 時間表示を切り換えるには

［経過時間／残り時間］をクリックします。

クリックするたびに、経過時間表示と残り時間表示が切り換わります。

MIDI(ミディ)パネルの操作について

MIDIファイルの再生中は、MIDIパネルの操作が可能です。
MIDIパネルを開くには、DISKパネル下部の［MIDI］をクリックします。

MIDIファイルの再生のしかた

1. ［セッティング］をクリックします。

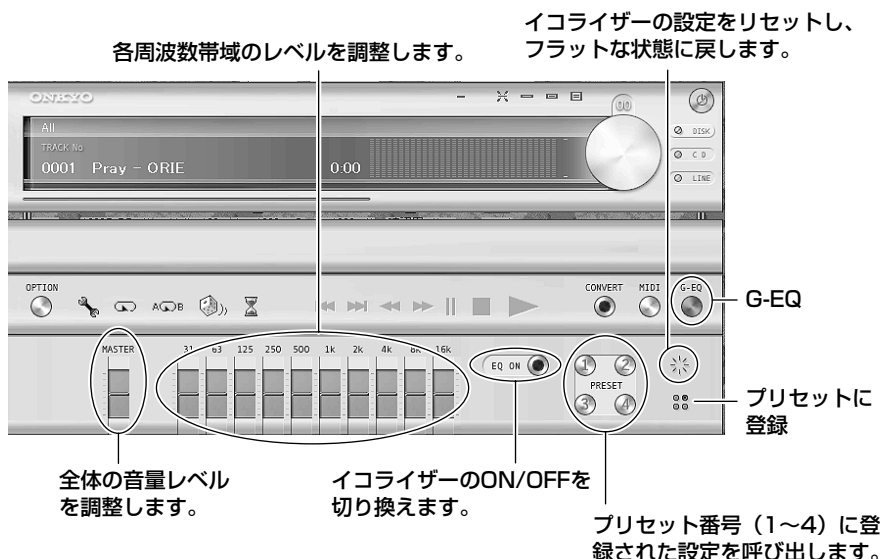
2. ［MIDI］タブをクリックし、お使いになるMIDI出力デバイスと、選択したデバイスのボリュームコントロールを設定し、［OK］をクリックします。

以上で設定は完了です。

3. MIDIファイルを再生します。

MIDIファイルの再生方法は他のミュージックファイルと同様です。
54ページをご覧ください。
MIDIファイルの再生中は、MIDIパネルの操作が可能です。MIDIパネルの操作については、次のページをご覧ください。

グラフィックイコライザーの使い方

音楽CDまたはミュージックファイルの再生中は、G-EQ（グラフィックイコライザー）パネルの操作が可能です。
G-EQパネルを開くには、DISKパネルまたはCDパネル下部のG-EQボタンをクリックします。

ご注意

- 再生する曲によっては、グラフィックイコライザーのレベルを上げすぎると、音が歪むことがあります。その場合、全体の音量レベル（パネル左下のMASTER）を下げることで改善することがあります。
- MIDIデバイスによっては、グラフィックイコライザー効果がかからない場合があります。
- グラフィックイコライザーで設定した音声は、録音ファイルのコンバート（変換）には反映されません。グラフィックイコライザーは再生するときだけお楽しみいただけます。

グラフィックイコライザーの設定を登録するには

1. G-EQ（グラフィックイコライザー）パネルで各周波数帯域を調整します。

2. ［プリセットに登録］（ ）をクリックします。

3. プリセット番号ボタン（[1]～[4]）をクリックします。

すでに登録済みの番号をクリックすると、新しい設定が上書きされます。

登録された設定を呼び出すには

プリセット番号ボタン（[1]～[4]）をクリックします。

CDDBを使う

CDDB（音楽CDのデータサービス）のご利用について

CDDB®とは、インターネットを使った音楽CDのデータベースサービスです。
CarryOn Musicは、CDDB®に接続して、音楽CDのいろいろな情報（アルバム名・アーティスト名・曲名など）を読み込むことができます。
一度読み込んだ音楽CDの情報は、CarryOn　Musicの内部に保存されますので、次回以降はインターネットに接続しなくても表示されます。
CDDB®のユーザ登録のしかたについては、次のページをご覧ください。
録音の手順については「音楽CDを録音する」（31ページ）をご覧ください。

ご注意

- モデムやISDNで接続している場合は、あらかじめインターネットに接続した状態でCDDBをご利用ください。ダイヤルアップネットワークの接続アイコンをダブルクリックして接続します。
- CDDB®を利用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。
- Microsoft Internet Explorer 4.0以上が必要です。
- CDDB®は、初回の利用時にインターネット上でのユーザー登録（無料）が必要です。

CDDBを利用するための設定をする

1. 画面左下の［セッティング］（ ）をクリックし、［CD情報］タブをクリックします。

2. ［Gracenoteを使用する］にチェックマークが入っていることを確認します。

3. ［Proxy設定］をクリックします。プロキシー（Proxy）経由でアクセスするときのみ、［はい］をクリックします。

プロキシ設定については、契約しているISP*によって異なります。ISPにより書面等で通知されている資料を元に設定してください。また、プロキシ設定の有無についても、契約しているISPにご確認ください。プロキシ設定が不要な場合は［いいえ］をクリックしてください。

*ISP：インターネットサービスプロバイダ

4. 必要な設定を行って、［OK］をクリックします。

プロキシーの設定は、お使いのインターネットブラウザの設定に合わせます。

Internet Explorerをご使用の場合は、次の方法で設定内容を確認することができます。
「ツール」メニュー→［インターネットオプション］をクリックし、「接続」タブを開きます。
［LANの設定］をクリックし、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の「プロキシサーバー」欄にある［詳細設定］をクリックしてください。「プロキシの設定」が表示されます。

5. ［CD情報］画面の［OK］をクリックします。

CDDBのユーザー登録をするには

ユーザー登録をされる前に

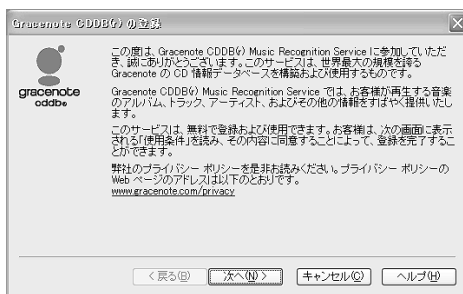
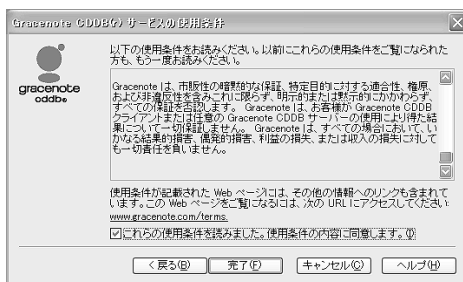
ブラウザ等でインターネットに接続できているかどうかご確認ください。
接続されていないと、CDDBの登録ができません。

1. CD-ROMドライブに音楽CDを入れて、CDパネルを選びます。

2. ［CD TEXT］→［Gracenote CDDB］→［Gracenote Lookup Disc］をクリックします。

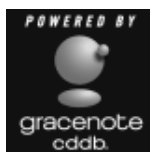
はじめてCDDBにアクセスしたときは、CDDBへの登録画面が表示されます。

3. CDDBの登録画面が表示されます。

　［次へ］をクリックします。

4. CDDBの利用許諾に同意する場合は［これらの使用条件を読みました。使用条件の内容に同意します。］にチェックを入れ、［完了］をクリックします。

CDDBから音楽CDの情報を取得するには

1. CD-ROMドライブに音楽CDを入れて、CDパネルを選びます。

2. ［CD TEXT］→［Gracenote CDDB］→［Gracenote Lookup Disc］を選択します。

3. 右記のアイコンが画面上に現れ、CDDBへの問い合わせが始まります。

4. CDDBから取得した音楽CDの情報が表示されます。

CD TEXTを使う

CD TEXTについて

CD TEXTとは、曲名やアーティスト名をCD TEXT対応のCDプレーヤやカーオーディオで表示させる機能です。

CD TEXTディスクを使用するには、CD TEXT対応のCD-ROMドライブ（または相当品）が必要です。

1. ［セッティング］（ ）をクリックし、［CD情報］タブをクリックします。

［CD TEXTを使用する］にチェックを入れます。
「優先言語」では、CD画面に表示する言語を選びます。
Japanese：日本語
English：英語

2. ［CD TEXTを使用する］にチェックマークを入れ、［OK］をクリックします。

3. CD TEXTディスクをCD-ROMドライブにセットします。

4. ［CD］をクリックします。

5. ［CD TEXT］→［CD TEXT］をクリックします。

CDパネルを使って録音する

音楽CDを録音する

※ あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

音楽CDを録音して、ミュージックファイルを作ります。
作成できるミュージックファイルの形式は、MP3（MP3Pro）、OGG Vorbis、WMA、WAVEの4種類です。
初期設定のファイル形式は、MP3です。その他のファイル形式にするときは、「選択した曲を録音する、録音するファイル形式を指定する」（33ページ）の手順を参考にしてください。

1. 音楽CDをCD-ROMドライブにセットします。

2. CarryOn Musicを起動します。

3. ［CD］をクリックします。

4. ［CD REC］をクリックします。

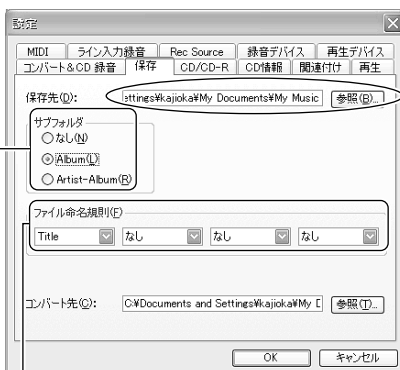
5. いろいろな設定をします。

① **アルバムのタイトルを入力するには**
アルバムタイトル欄をクリックし、タイトルを入力しEnterキーを押します。
アルバムタイトルはCDDBから取得することもできます。
アルバム名やアーティスト名には、次の文字（禁則文字）は使用できませんのでそれ以外の文字をご使用ください。
禁則文字：¥ / , : ; * ? “ <> l

② **録音した音声ファイルの保存場所を指定するには**
［BROWSE（ブラウズ）］をクリックすると「フォルダの参照」画面が表示されますので、保存場所を指定し［OK］をクリックします。

③ **CDDB®から情報を取得するには**
［CD TEXT］をクリックします（29ページ）。

④ **保存内容を細かく設定するには**
［セッティング］をクリックし、「保存」タブを選択します。

保存先のフォルダにアルバム名やアーティスト名のサブフォルダを作成して、その中にミュージックファイルを保存します。ここでは、サブフォルダの作り方を指定します。
なし：サブフォルダは作りません。録音されたミュージックファイルはすべて［保存先］で指定したフォルダの中に保存されます。
Album：アルバム名のついたサブフォルダを作ります。ミュージックファイルはアルバムごとのフォルダに保存されます。
Artist-Album：アーティスト名のついたサブフォルダを作り、さらにその中にアルバム名のついたサブフォルダを作ります。ミュージックファイルはアルバムごとのフォルダに保存されます。

録音によって作成されるミュージックファイルの保存先を確認し、必要に応じて変更してください。
ネットワーク上のフォルダも選択できます。

ファイルの命名規則
［CD］パネル上で音楽CDからリッピングすることによって作成されるミュージックファイルのファイル名のつけ方を指定します。「01-Track01」のようなファイル名になります。ファイル名には必ずTitle（タイトル）かTrack No.（曲番）が必要です。
［LINE］パネル上で録音した場合は適用されません。

6. ［●］をクリックします。

音楽CDの全曲を録音して、自動停止します。

7. CD RECボタンまたはCDボタンをクリックします。

録音モードは解除されます。録音した音声はDISKパネルでご確認ください。

ご注意

- アルバムタイトルは必ず入力してください。入力しないと、次の手順に進めません。
- アルバムタイトルの編集は、録音後に一括編集することはできません。録音した曲ごとの編集になりますので、最初に正しいタイトル名を入力することをお勧めします。
- CDDB®から情報を取得するときは、画面の［INFO］→［Gracenote CDDB］→［Gracenote Lookup Disc］をクリックします。CDDB®の詳しい内容および設定については26ページをご覧ください。
- アルバムタイトルを手動で入力する場合は、CDDB®でCD情報を取得しないでください。データベースに情報がない場合、各項目がすべて消去されてしまいます。

選択した曲を録音する、録音するファイル形式を指定する

1. 「音楽CDを録音する」（31ページ）の手順1～5の操作をします。

2. 録音する曲を選びます。

1曲ずつクリックして、録音する曲（赤）と録音しない曲（グレー）を選ぶことができます。
パネル右下の［すべて選択］をクリックすると、全曲が録音する曲（赤）になります。
［すべて解除］をクリックすると、全曲が録音しない曲（グレー）になります。

3. ［フォーマット］を（くり返し）クリックして、ファイル形式を選びます。

クリックするたびに、ファイル形式がMP3→OGG→WAV→WMA→MP3と切り換わります。初期設定は、MP3です。
各ファイル形式の詳細については、69、70ページをご覧ください。

初期設定をWMAやWAVE、OGG形式にするには

① ［セッティング］をクリックします。

② ［コンバート＆CD録音］タブをクリックし、ファイル形式を選びます。

③ ［OK］をクリックします。

4. ［●］をクリックします。

選んだ曲だけを録音します。録音が終わると、自動停止します。

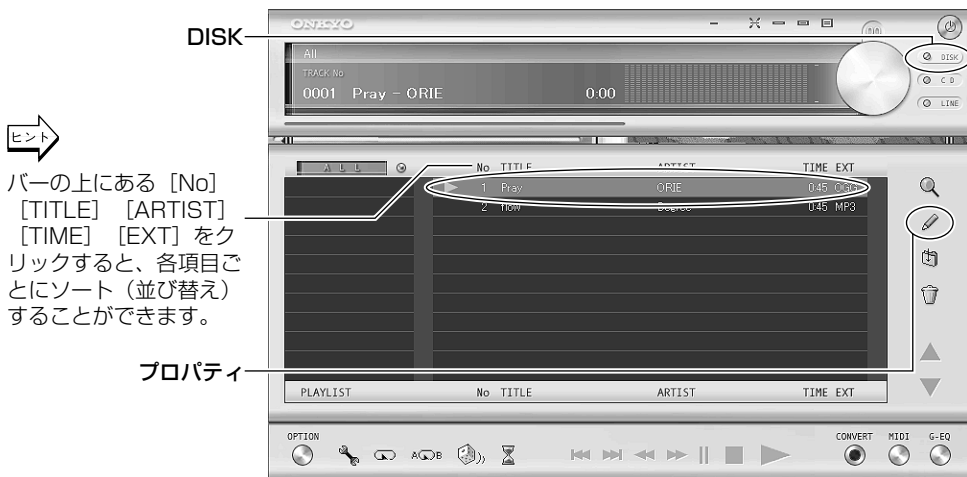
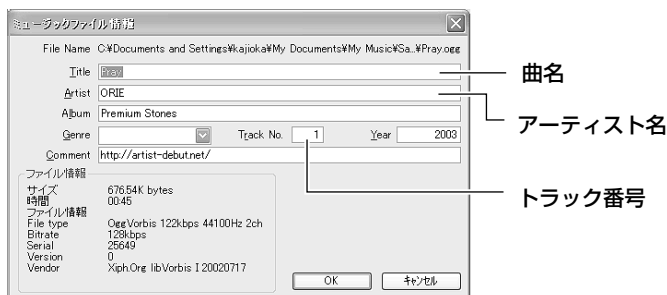
録音モードを解除するには、CD RECボタンまたはCDボタンをクリックします。

あとからアーティスト名や曲名を入力するには

ミュージックライブラリやプレイリストに表示される各曲の情報をミュージックファイル情報と呼びます。
ミュージックファイル情報はCarryOn Musicが管理する独自の情報です。
ミュージックファイル情報を元に、アルバムタイトル・アーティスト名・曲名・ジャンルなどのタグ情報も作成されます。（ミュージックファイル情報はファイル名とは異なります。）

1. ［DISK］をクリックします。

2. 曲を選び、［プロパティ］をクリックします。

バーの上にある［No］［TITLE］［ARTIST］［TIME］［EXT］をクリックすると、各項目ごとにソート（並び替え）することができます。

3. 曲名やアーティスト名を入力して、［OK］をクリックします。

- トラック番号を編集しておくと、トラック番号順にソートするときに便利です。
- 曲名を選択して右クリックし、プロパティを呼び出してミュージックファイルを編集することもできます。

LINE(ライン)パネルを使って録音する

他の機器から録音する

色々なオーディオ機器と接続し、FM/AM放送やMD、テープの音をWAVEもしくはMP3のミュージックファイルとしてコンピュータに録音することができます。
接続方法は、お使いのサウンド機器の取扱説明書をご覧ください。

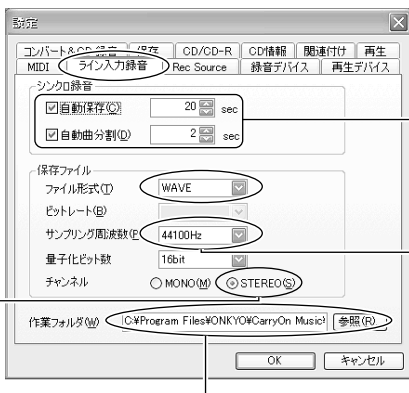
ご注意

- CDに近い音質（サンプリングレート44.1kHz、16ビット、ステレオ）で録音するには、WAVEファイルで1分あたり約10MB、同一レートでのMP3やOGG、WMAファイルへの録音では1分あたり約1MBの容量が必要です。録音するときは、ハードディスクに充分な空きがあることを確認してから録音を始めてください。
- 録音・再生時は、パソコンのCPUに大きな負荷がかかります。特に録音時は、音切れ・音飛びを防ぐために、他のアプリケーションを終了してから、録音されることをお勧めします。CPU能力や環境により、MP3などを直接作成するときに音切れや音飛びが発生する場合には、エンコード速度やフォーマットの設定を変更するか、いったんWAVEファイルを作成してからコンバート（変換）するなどの方法をお試しください。

1. CarryOn Musicを起動します。

2. ［LINE］をクリックします。

3. ［セッティング］をクリックします。

4. 設定パネルの［ライン入力録音］タブが開いています。保存時のファイル形式を選びます。

デジタル録音の場合は、STEREOにしておいてください。

シンクロ録音を選ぶとき
［自動保存］をチェックすると、設定した時間の無音が続くと、ソース（音源）の再生が終了したと判断して自動的に録音を停止します。
［自動曲分割］をチェックすると、設定した時間の無音が続くと、曲のつなぎ目と判断して自動的に曲番をくり上げます。

デジタル録音する場合は、実際に入力しているデジタル信号と同じサンプリング周波数に設定してください。他のサンプリング周波数にしたい場合は、録音後にDISK画面でCONVERT機能をお使いください。

作業フォルダを指定する場合は、容量の大きいフォルダを指定することをお勧めします。

続いて「保存」タブを開きます。

録音によって作成されるミュージックファイルの保存先を確認し、必要に応じて変更してください。
ネットワーク上のフォルダも選択できます。

保存先のフォルダにアルバム名やアーティスト名のサブフォルダを作成して、その中にミュージックファイルを保存します。ここでは、サブフォルダの作り方を指定します。
なし：サブフォルダは作りません。録音されたミュージックファイルはすべて［保存先］で指定したフォルダの中に保存されます。
Album：アルバム名のついたサブフォルダを作ります。ミュージックファイルはアルバムごとのフォルダに保存されます。
Artist-Album：アーティスト名のついたサブフォルダを作り、さらにその中にアルバム名のついたサブフォルダを作ります。ミュージックファイルはアルバムごとのフォルダに保存されます。

5. 「Rec Source（レック ソース）」タブを開きます。

設定を変える必要がなければ［OK］ボタンをクリックして、手順6へ進んでください。

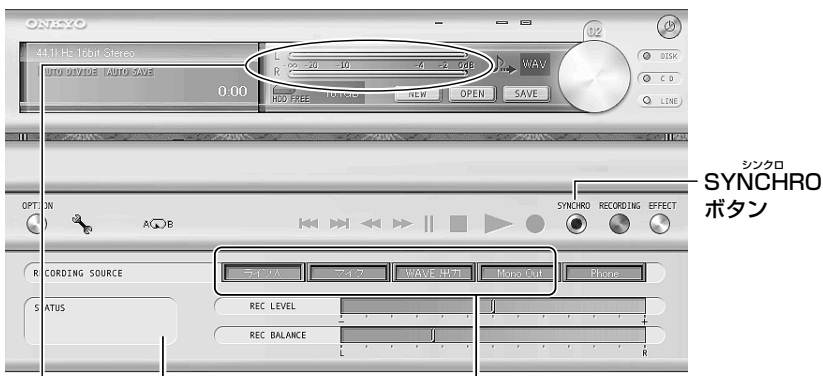
ライン録音ソース設定
RECORDINGサブパネルの入力ソースボタンの設定を変更できます。

入力ソースの詳細な情報については、ご使用の機器の説明書などをご覧ください。

6. RECORDING（レコーディング）ボタンをクリックします。

RECORDINGボタン

7. **録音する機器の入力ソースを選択します。**

入力ソースの詳細な情報については、ご使用のサウンドボードなどの取扱説明書をご覧ください。

8. **アナログの場合、録音レベルおよび録音バランスの調整をします。**

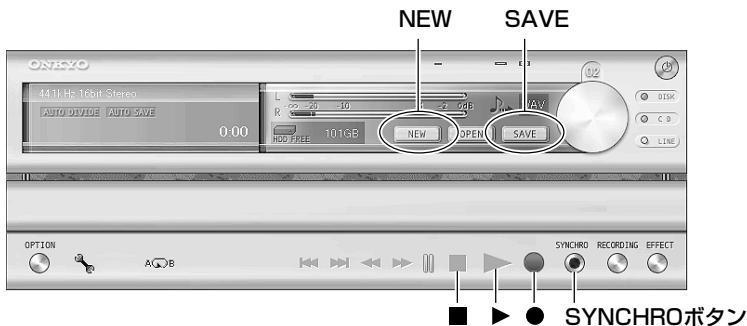
デジタルの場合は録音レベルの調整は不要です。手順9へ進んでください。

①SYNCHROボタンをクリックして、黄色いインジケーターを消します。

②録音ボタン［●］をクリックします。

③入力レベルを調整するため、ソース（音源）の再生を始めます。レベルインジケーターを見ながら、パソコンに接続された録音機器側で録音レベルを調整します。

④ソース（音源）の再生を停止します。

- 選択したソースやお使いのサウンドカードによっては、REC LEVELが調整できないことがあります。録音レベルの調整については、お使いの録音機器（USBオーディオプロセッサーやサウンドボードなど）の取扱説明書もあわせてご覧ください。

9. **SYNCHRO(シンクロ)ボタンをクリックしてインジケーターを点灯させます。**

シンクロ機能は、入力ソースの再生に同期して録音を開始する機能です。

10. **録音ボタン［●］をクリックします。**

録音待機状態になります。
FM/AM放送の場合は、録音を始めたいところで●ボタンをクリックすると録音が始まります。

11. 入力ソース（音源）の再生を始めます。

再生に同期して録音が始まります。
FM/AM放送などで、放送終了時刻がわかっているときは、自動的に終了できる「録音終了タイマー設定」をしておくことができます（→68ページ）。

12. 録音が終了したら［■］をクリックします。

ALBUM TITLE、ARTIST欄をクリックしてアルバムタイトルやアーティスト名を入力します。（¥ / , : ; * ? “ <> I 等は入力できません。）

録音した音声を確認するには：
［▶］をクリックします。

13. 必要に応じて、次の調整を行います。

ファイルを分割する（→39ページ）
［EFFECT］パネルを出してエフェクトをかける（→44ページ）

14. ［SAVE］をクリックします。

録音内容が保存されます。
ファイル名は自動的に決定され、DISKパネルのライブラリに登録されます。確認したいときはDISKボタンをクリックしてパネルを切り換えてください。ファイル名の変更が必要な場合は、ワイドパネルに切り換えて、必要箇所を書き換えてから［SAVE］をクリックします。

保存せずに次の録音を始めようとすると「未保存のデータが残っています。保存しますか？」というメッセージが出ますので、保存する場合は［はい］、不要な場合は［いいえ］をクリックしてください。

続けて新規ファイルに録音するには

［NEW］をクリックします。

LINE(ライン)パネルを使って録音する

LINEパネルで外部機器から録音するとき、録音後にEFFECT(エフェクト)パネルを開いて、ファイルを分割したりエフェクトをかけることができます。
録音済みのミュージックファイルを呼び出して編集することもできます。そのときは、［OPEN］をクリックし、ミュージックファイルを指定するか、エクスプローラ画面でファイルを指定して、LINEパネル画面にドラッグ＆ドロップします。

ファイルを分割する

録音後に手動でファイルを分割するには

① ［▶］をクリックして再生を始めます。

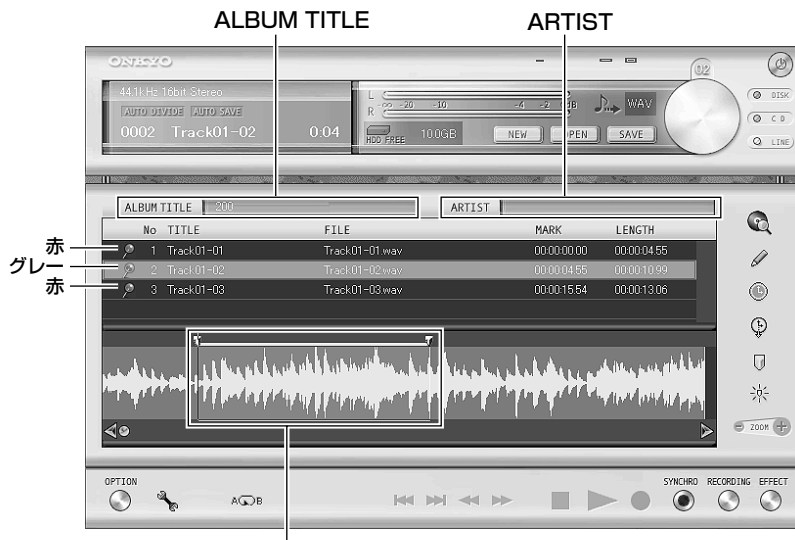
② 分割したいところで［マークの追加］をクリックします。マークがつきます。

- ［カーソル］をクリックすると、数値で位置を指定することもできます。

- マークを取り消したいときは、取り消したいマークの右側の波形をクリックしてから［マークの削除］をクリックします。

「他の機器から録音する」（35ページ）の手順4で［自動曲分割］をチェックしておくと、シンクロ録音中に、設定した時間の無音が続くと、曲のつなぎ目と判断して自動的にファイルが分割されます。

分割したファイルを編集するには

ファイルを分割した状態で、各タイトル欄の先頭にあるランプを1曲ずつクリックして、保存する曲（赤）と保存しない曲（グレー）を分けることができます。
保存する曲には、アーティスト名や曲名を入力することができます。（¥ / , : ; * ? “ <> I 等は入力できません。）ALBUM TITLE、ARTIST欄をクリックしてください。
オムニバスCDなどから録音したとき、録音後に曲ごとにアーティスト名を入力する場合に便利です。

［SAVE］をクリックするまでは、実際の分割は実行されません。

MusicID を利用してタイトルをつける

録音された音楽ファイルのタイトルなどの楽曲情報をインターネットを経由して取得するMusicID機能はLINEパネルに搭載されています。LINEパネルを開きパネルの右側に縦に並んでいるアイコンの一番上にあるのが［MusicID］ボタンです。

MusicIDボタンの使用方法

1. 楽曲情報を取得したい音楽ファイルを準備します。

A）すでにMP3やWAVEなどの音楽ファイルとして保存されている楽曲
B）レコードやカセットの音源等まだ音楽ファイルとして録音されていない楽曲

の2種類のそれぞれの楽曲について、あらかじめLINEパネルに用意します。

A）すでにMP3やWAVEなどの音楽ファイルとして保存されている楽曲

楽曲情報を取得したい音楽ファイル（MP3またはWAVE）のアイコンをLINEパネルに直接ドラッグ＆ドロップするか、OPENボタンで表示されるダイアログから目的のファイルを選択してください。正しくファイルが読み込まれると波形情報が表示されます。

B) レコードやカセットの音源等まだ音楽ファイルとして録音されていない楽曲

まずLINEパネルを使ってお使いのサウンド機器の取扱説明書を参考に外部録音を行ってください。

ご注意

- 必ず音源側のイコライザー機能は外した状態で録音を行ってください。
- 特にポータブル機器から録音される場合、低音ブーストなどをすべてOFFにしてください。楽曲自体の波形が変化してしまい正しく楽曲が取得できません。

2. LINEパネルに音楽ファイルが用意され、波形情報が表示されているのを確認しMusicIDボタンを押してダイアログを表示させてください。

3. 検索対象ファイルを確認して検索ボタンを押してください。インターネットを経由して検索結果が表示されます。

LINEパネルを使って録音する

4. 右端の項目［Hit］に1以上の数字が表示された場合、別候補に変更することができます。別候補に変更したいタイトル行を選択した状態で［選択］ボタンを押します。［ミュージックファイル情報］が開きますのでPresetから候補を選んでください。

5. すべての設定が終了したらSAVEボタンを押してDISKパネルのミュージックライブラリに登録してください。このときEffectサブパネルでフェードイン/アウトなどのエフェクトを加えている場合も同時に反映された状態でライブラリに保存されます。

6. DISKパネルに切り換えるとLINEパネルで保存した楽曲が自動登録されているのが確認できます。ジュークボックスとしてDISKパネルで音楽再生をお楽しみください。

エフェクトをかける

EFFECTパネルでは、フェードイン、フェードアウト、ノーマライズ、左右のレベル調整、ノイズの低減などの効果をかけることができます。
エフェクト操作は、A−Bリピート（22ページ）で再生音を確認しながら行えます。
実際のエフェクト処理は、［SAVE］をクリックするまで実行されないので、何度もエフェクトの効果を確認しながら調整できます。

数値上下ボタン

エフェクトボタン

左右のレベル調整スライダー

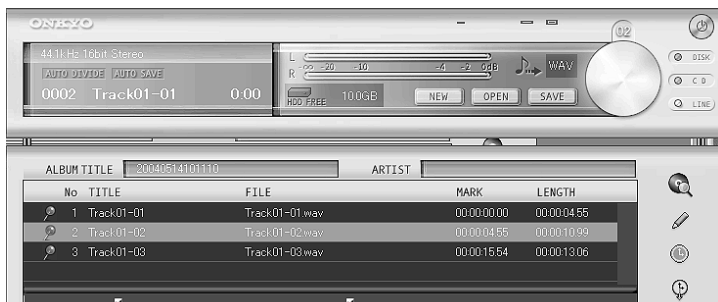
フェードアウトボタン

フェードインボタン

ノーマライズ、ノイズ低減ボタンおよびスライダー

フェードイン／フェードアウトをかける

曲の始めを徐々に音量を上げて曲の再生を始めたり（フェードイン）、曲の終わりを徐々に音量を下げて再生を終わる（フェードアウト）設定ができます。

① フェードイン（もしくはフェードアウト）をかけたいトラックを選びます。

② フェードインするには、［FADE　IN］の丸いボタンをクリックします。フェードアウトするには、［FADE OUT］の丸いボタンをクリックします。
フェードイン／フェードアウトを設定すると、波形モニターに右上がり／右下がりの線が表示されます。

フェードアウト　フェードイン　フェードインのマーク（ここでの例は5秒の場合）

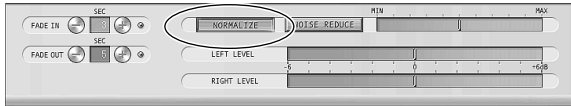
③ ⊕または⊖ボタンをクリックして時間を設定します。
フェードイン／フェードアウトは、指定した曲だけにはたらきます。

ここでは3秒に設定した場合

⊖　⊕

39ページの「ファイルを分割する」と組み合わせることもできます。ファイルを分割したあと、フェードイン／フェードアウトをかけたいファイルを選択し、フェードイン／フェードアウトの各ボタンをクリックしてください。

ノーマライズをかける

録音レベルが低すぎたときなど、再生音が歪まないように、適切なレベルで録音した状態に全体のレベルを補正します。
ノーマライズをかけるには、［NORMALIZE］をクリックします。
ノーマライズは、録音するすべての曲にはたらきます。

左右のレベルを調整する

左右の録音レベルが均一でない場合、どちらかのレベルだけを増減させて、バランスの調整ができます。
左右のレベルを設定するには、LEFT LEVEL（左）またはRIGHT LEVEL（右）の指針をドラッグします。
設定されたレベルは、録音するすべての曲にはたらきます。

ノイズ低減レベルを設定する

再生時にノイズが聞こえる場合、レベルを下げてノイズの軽減ができます。
ノイズ低減レベルを設定するには、［NOISE REDUCE］をクリックし、指針をドラッグします。
ノイズ低減レベルは、録音するすべての曲にはたらきます。

ご注意

「ノーマライズをかける」「左右のレベルを調整する」「ノイズ低減レベルを設定する」は、各トラックごとには設定できません。

指定した区間だけをくり返し再生する（A－Bリピート）

エフェクトの効果を確認したい部分をくり返し再生し、再生音を確認しながら操作できます。

1. 再生中に、くり返し再生を始めたい位置で、［A－B区間］をクリックします。

2. 再生を終わりたい位置で、もう一度［A－B区間］をクリックします。

A－B間がくり返し再生され、エフェクトの効果を確認できます。

ファイル形式を変換する

他のフォーマットに変換する

ミュージックファイルをその他のファイル形式に変換できます。

著作権保護のかかっているミュージックファイルは他のファイル形式に変換できません。また、MIDIファイルも、他のファイル形式に変換できません。

- MP3やWMA、OGGファイルは、WAVEファイルに比べて、データ容量が小さくなります。
- 変換元のファイルもハードディスクに残るので、不要な場合は削除してください。

1. ［DISK］をクリックします。

2. 変換する曲をクリックして選びます。

ヒント

アルバム名やプレイリストを選ぶと、グループ単位で変換できます。
複数の曲を選ぶときは、次のようにします。

- 連続した複数のトラックを選択するときは、Shiftキーを押しながらクリック、もしくはShiftキーを押しながら↑↓キーを押します。
- 連続していない複数のトラックを選択するときは、 Ctrlキーを押しながらクリックします。

3. ［CONVERT（コンバート）］をクリックします。

4. ［フォーマット］をクリックし、変換するファイル形式を選びます。

「標準の録音形式を適用できないミュージックファイルがあります。個別に設定してください。」と表示されたら

① ［Setting Error（セッティング エラー）］と表示している曲を右クリックし、メニューから［プロパティ］→［録音］タブをクリックします。
② ファイル形式やフォーマットなどを設定します。
③ ［OK］をクリックします。

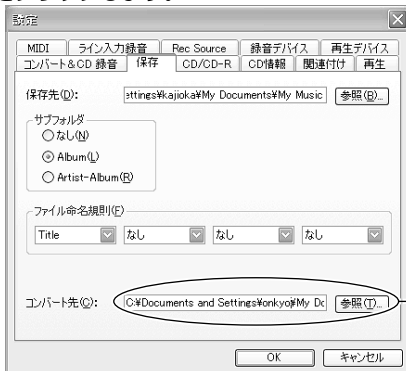
変換元と異なる場所に保存するには

［BROWSE（ブラウズ）］をクリックし、フォルダを指定して保存先を変更します。

変換した曲をミュージックライブラリに登録するには

［ライブラリへ追加］をクリックし、アイコンの外枠を光らせます。

保存先を指定するには

左下のセッティングボタンをクリックします。

5. ［●］をクリックします。

変換する曲を選んでから右クリックし、メニューから［別のフォーマットへコンバート］をクリックして操作することもできます。

6. CONVERTボタンまたはDISKボタンをクリックします。

変換モードが解除されます。

オリジナルCDを作成する

CD-R/RWの書き込み設定をする

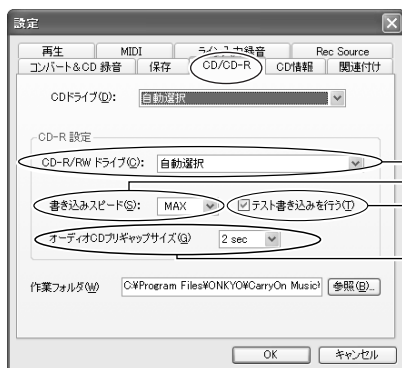
お使いのパソコンがCD-R/RWドライブを搭載しているときは、MP3、WAV、WMA、OGGなどのファイル形式のミュージックファイルをそのままデータCDとして、もしくは音楽CDとしてCD-Rに記録することができます。

ご注意

- WMAファイルは、Microsoft社の規定により他のファイル形式に変換できません。
- UDFフォーマットされていないディスクをご使用ください。

1. ［DISK］をクリックします。

2. ［セッティング］をクリックします。

3. ［CD/CD-R］タブをクリックします。

CD-R/RWドライブ：ご使用になるドライブを選択してください。
書き込みスピード：お好みに合わせて選択します。
テスト書き込みを行う：不要な場合はチェックを外します。
オーディオCDプリギャップサイズ：曲の頭に入れる無音部分を設定できます。
作業フォルダ：CD-Rへ書き込むときの作業フォルダを設定します。空き容量の大きいドライブを指定することをお勧めします。

ライティングエンジンのエラーが出て書き込めない場合

下記の方法で再度書き込みをしてみてください。

- 書き込みスピードを落とす。
- ［テスト書き込みを行う］のチェックを外す。
- メディアを変えてみる。
  UDFフォーマットしているディスクには書き込めません。

音楽CDを作成するには

1. ［DISK］をクリックします。

2. 変換する曲をクリックして選び、［CONVERT（コンバート）］をクリックします。

3. ［フォーマット］をクリックし、［CDA］形式を選びます。

4. CD-R/RWドライブに、オーディオ用CD-R/RWメディアをセットします。

5. ［●］（録音）をクリックします。

記録が始まります。
記録が終了すると、CD-R/RWドライブのトレイが自動的に開きます。

曲間の無音部分の長さを調整するには

［セッティング］をクリックして設定パネルを開きます。
［CD/CD-R］タブをクリックして設定画面を表示し、「オーディオCDプリギャップサイズ」の値を選んでください。

DATA CDを作成するには

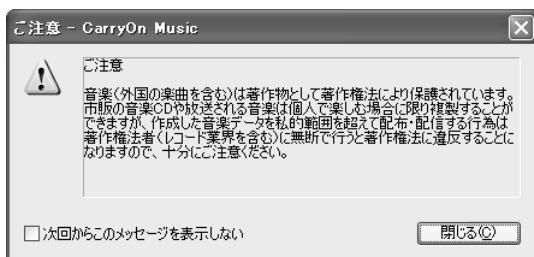
1. ［DISK］をクリックします。

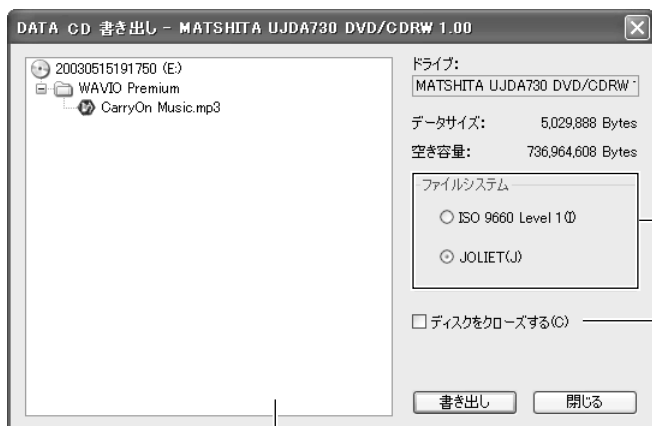
2. 変換する曲をクリックして選び、［CONVERT］をクリックします。

3. ［フォーマット］をクリックし、［CDD］形式を選びます。

4. CD-R/RWドライブに、オーディオ用CD-R/RWメディアをセットします。

5. ［●］（録音）をクリックします。

著作権についてのご注意が表示されるので、確認して［閉じる］をクリックします。

クリックすると書き出しの画面が表示されます。

6. 「DATA CD 書き出し」画面の設定をします。

7. ［書き出し］をクリックします。

記録が始まります。
記録が終了すると、CD-R/RWドライブのトレイが自動的に開きます。

ご注意

DATA CDについて

- ミュージックファイルが入っているフォルダには「F_001、F_002･･･」、フォルダ内のファイルには「T_001、T_002･･･」というように自動的に番号をつけます。
- ISO9660およびJoliet CD-ROMファイルシステムに従って記録します。再生したいCDプレーヤーにあわせて選択してください。

ミュージックライブラリ

ミュージックライブラリ機能について

CarryOn Musicで録音したミュージックファイルは、自動的にミュージックライブラリに登録されます。ミュージックライブラリでは、アーティスト、アルバムのグループ単位で音楽の再生ができます。たとえば、任意のアーティストを選択すれば、そのアーティストのすべての曲を聞くことができます。

1. ［DISK］をクリックします。

2. ［ALL］の右にあるボタンをくり返しクリックして、グループ全体や、アーティスト、アルバムを選ぶことができます。

クリックするたびに、表示が切り換わります。

●ALL：全曲

●ARTIST：アーティスト別

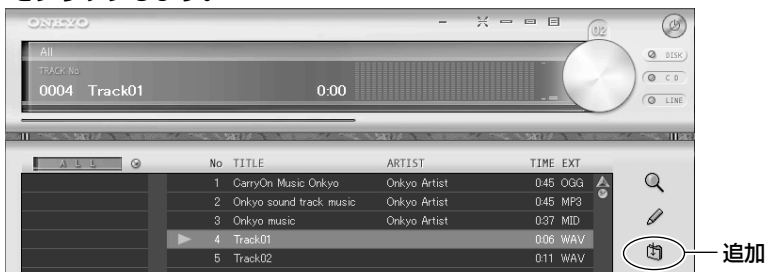
●ALBUM：アルバム別

3. ［▶］をクリックすると、再生が始まります。

CarryOn Musicにミュージックファイルを登録するには

他のソフトウェアなどで作成され、すでにハードディスクに保存されているミュージックファイルを、ミュージックライブラリに追加できます。

1. ［DISK］をクリックし、ワイド画面またはスーパーワイド画面にします。

2. ［追加］をクリックします。

ファイルを選択するダイアログが表示されます。

3. 保存されているミュージックファイルを指定し、［開く］をクリックします。

選択したファイルが、ライブラリに追加されます。

マイコンピュータから、追加するミュージックファイルのあるフォルダを［DISK］パネルに直接ドラッグ＆ドロップすると、ミュージックファイルをまとめて登録できます。

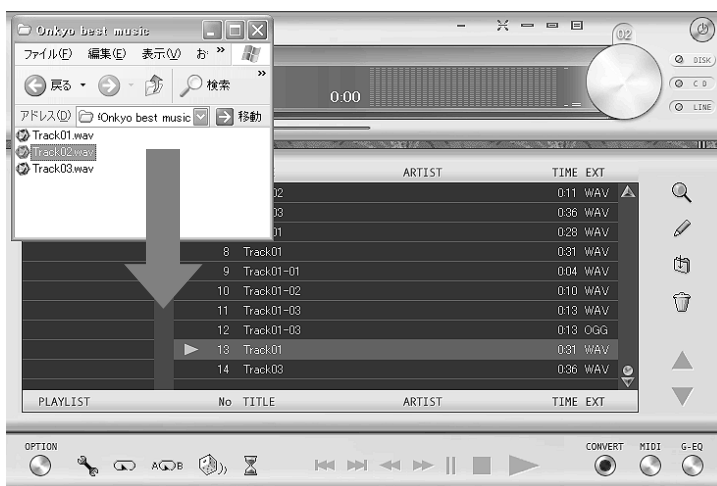
ドラッグ&ドロップで追加する

1. 追加するミュージックファイルのあるフォルダを開きます。

2. 追加するミュージックファイルを選択します（複数選択可）。

複数のミュージックファイルを選ぶときは、次のようにします。

- 連続した複数のミュージックファイルを選択するときは、Shiftキーを押しながらクリック
- 連続していない複数のミュージックファイルを選択するときは、 Ctrlキーを押しながらクリック
- フォルダごとドラッグ&ドロップすれば、その中にあるすべてのミュージックファイルをライブラリに追加することができます

3. ミュージックファイルを、ミュージックライブラリにドラッグ&ドロップします。

- プレイリストにドラッグ&ドロップすると、プレイリストとミュージックライブラリの両方に追加されます。プレイリストについては59～67ページをご覧ください。
- 追加したミュージックファイルの情報を編集するときは、「あとからアーティスト名や曲名を入力するには」をご覧ください（34ページ）。

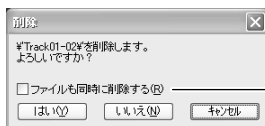
CarryOn Musicに登録した曲を消去するには

1. ミュージックライブラリで、消去する曲を選択します。

ミュージッグライブラリのグループを消去するには、グループ内の曲をすべて選択して消去します。グループ名を選択してグループ内のデータを一括消去することはできません。

2. ［削除］をクリックします。

- 連続した複数のトラックを選択するときは、Shiftキーを押しながらクリックするか、↑↓キーを押します。
- 連続していない複数のトラックを選択するときは、 Ctrlキーを押しながらクリックします。

3. ［はい］をクリックします。

**ミュージックファイル自体も削除する時は
チェックを入れます。**

CarryOn Musicでの［削除］はCarryOn Musicへの登録の消去を意味します。ハードディスクに保存されているオリジナルのミュージックファイルは削除されません。ミュージックファイル自体を削除する時は、［削除］ダイアログボックスの［ファイルも同時に削除する］にチェックを入れてから［はい］をクリックしてください。

CarryOn Musicに登録した曲を検索するには

曲名やアーティスト名などを元に、ミュージックファイルを検索できます。
検索した曲をプレイリストに追加したり、新たにプレイリストとして登録することもできます。

1. ［DISK］をクリックします。

2. ［ライブラリの検索］をクリックします。

3. ［検索文字列］に文字を入力して、［検索対象］と［検索範囲］を指定します。

4. ［検索］をクリックします。

ミュージックライブラリに検索結果が反転表示されます。
もう一度［検索］をクリックすると、次の検索候補に反転が移動します。

プレイリスト

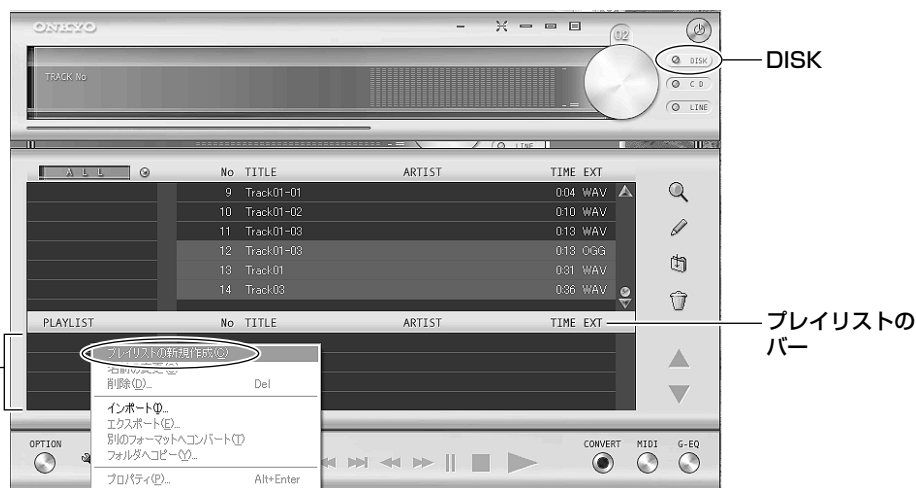
プレイリストは、好みの曲を好みの順に再生するときに使います。ミュージックライブラリから好みの曲をプレイリストに登録して、オリジナルのプレイリストを作成できます。

ご注意

音楽CDから録音しただけでは、プレイリストには何も表示されません。

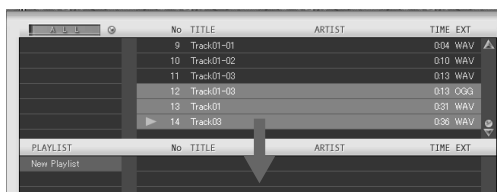
新しいプレイリストを作るには

1. ［DISK］をクリックし、ワイド画面またはスーパーワイド画面にします。

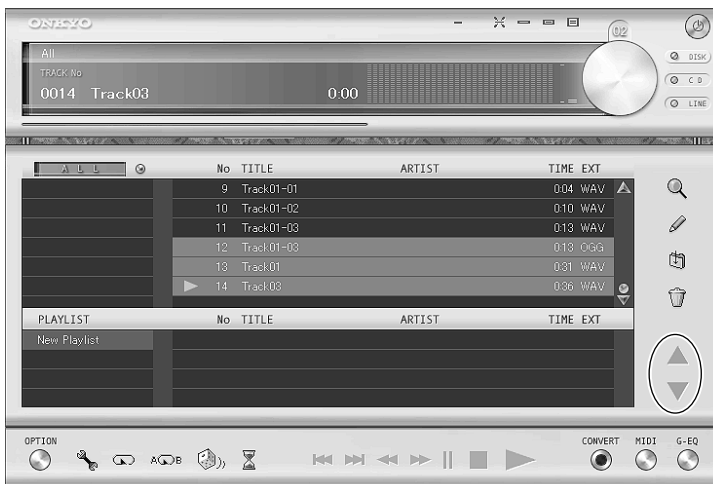
2. プレイリスト欄で右クリックし、［プレイリストの新規作成］をクリックします。
   プレイリストのバーが一番下にあるときは、バーをドラッグして上に引き上げてください。

3. プレイリストに登録する曲をクリックして選びます。

複数の曲を選ぶときは、次のようにします。

- 連続した複数のトラックを選択するときは、Shiftキーを押しながらクリックするか、↑↓キーを押します。
- 連続していない複数のトラックを選択するときは、 Ctrlキーを押しながらクリックします。

4. 選んだ曲を、プレイリストにドラッグ&ドロップします。

ミュージックライブラリに登録されていない曲も、ドラッグ＆ドロップしてプレイリストに追加できます。プレイリストに追加すると、ミュージックライブラリにも追加されます。

5. 曲順を入れ換えるには、移動する曲をクリックして、［▲］または［▼］をクリックします。

移動する曲をドラッグ＆ドロップしても入れ換えることができます。

6. ［▶］をクリックします。

選んだ曲だけが、ミュージックリストの曲順で再生されます。

プレイリスト

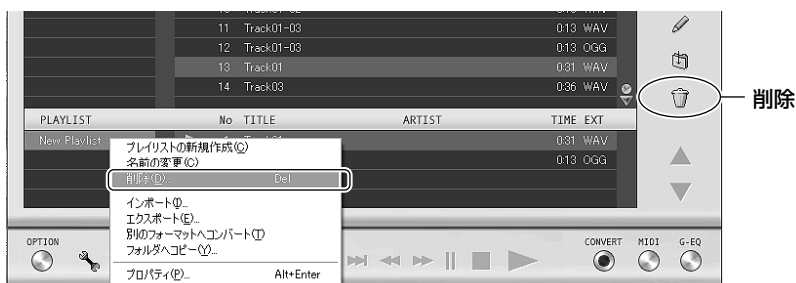
プレイリストの名前を変更するには

1. 変更する名前を右クリックし、メニューの［名前の変更］をクリックします。

2. 文字を入力して、Enterキーを押します。

プレイリストを削除するには

1. 削除するプレイリストを右クリックし、メニューの［削除］をクリックします。

2. 確認のメッセージが出たら、［OK］をクリックします。

［削除］ボタンをクリックしても削除できます。

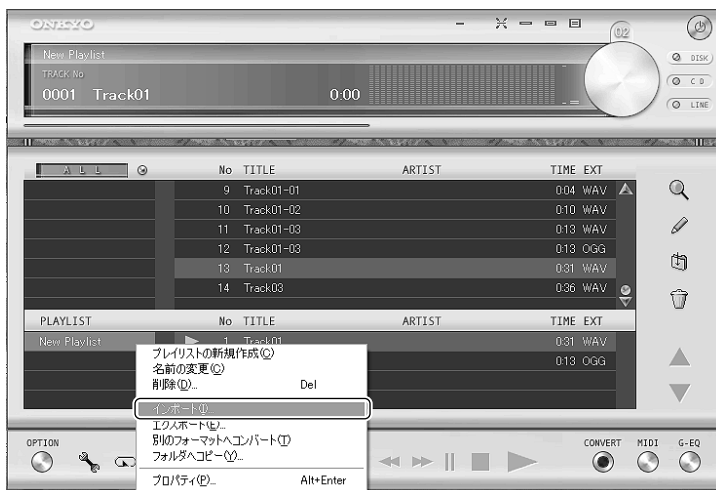
プレイリストを保存するには

1. プレイリストの名前を右クリックし、メニューの［エクスポート］をクリックします。

「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。

2. ［保存する場所］、［ファイル名］などを指定し、［保存］をクリックします。
   アルバムタイトル・アーティスト名・曲名・ジャンル・曲順などの情報が、ファイルとして保存されます。

プレイリストを読み込むには

1. プレイリスト欄で右クリックし、メニューから［インポート］をクリックします。

2. ［インポート］ダイアログボックスで、読み込むプレイリストファイルをクリックし、［開く］をクリックします。

読み込んだプレイリストが表示されます。

同じ名前のプレイリストがあるときは、確認メッセージが表示されます。［OK］をクリックすると、同じ名前のプレイリストの中に追加されます。

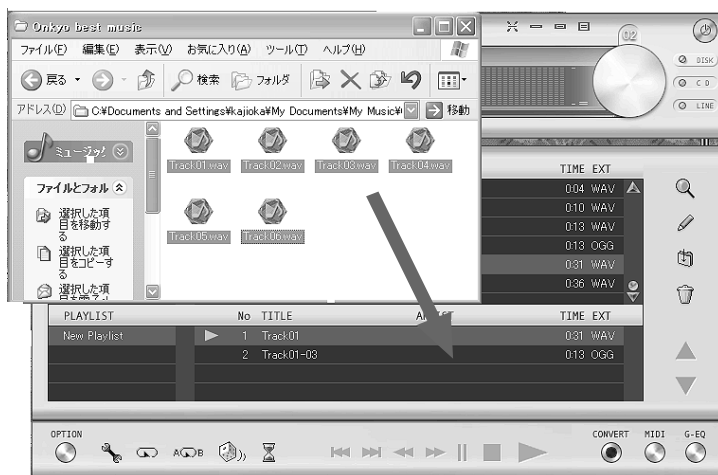
プレイリスト

一度に複数のプレイリストを読み込むには

既存のプレイリストファイル（M3U形式またはPLS形式）を読み込むことができます。読み込まれたプレイリストは、ミュージックライブラリにも登録されます。

1. プレイリストを保存してあるフォルダを開きます。

2. プレイリストファイル（M3U形式またはPLS形式）を選択します。

3. プレイリストファイルをCarryOn Musicのプレイリストエリアにドラッグ&ドロップします。

読み込んだプレイリストが表示されます。

プレイリストの任意の位置に曲を挿入するには

1. ミュージックライブラリで、追加する曲を選択します。

グループに含まれるすべての曲を挿入するときは、グループを選択します。

2. 選択した曲またはグループを、追加先のプレイリストの挿入したい位置へドラッグ&ドロップします。

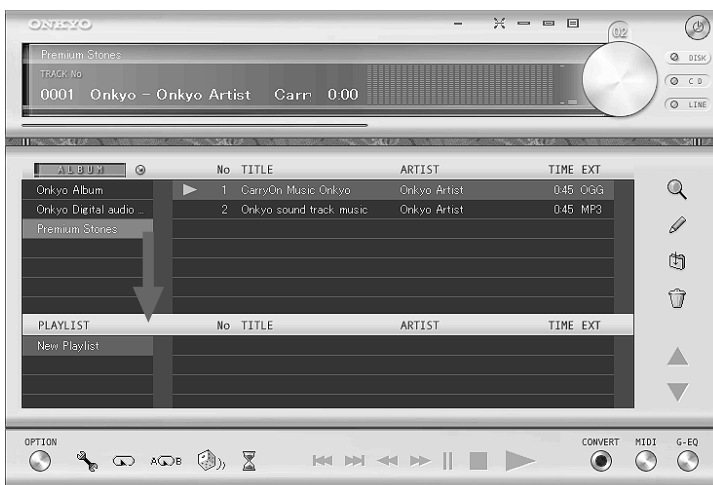
プレイリストの末尾に曲を挿入するには

1. ミュージックライブラリで、追加する曲を選択します。

グループに含まれるすべての曲を挿入するときは、グループを選択します。

2. 選択した曲またはグループを、プレイリストの名前部分へドラッグ&ドロップします。

グループを選択して新しいプレイリストを作るには

ミュージックライブラリのグループを選択して、プレイリストの空白部分へドラッグ&ドロップします。

ミュージックライブラリのグループ名と同名のグループが新たに作成されます。

曲を検索して、プレイリストに追加するには

1. ［DISK］をクリックします。

2. ［ライブラリの検索］（🔍）をクリックします。

3. 検索する条件を入力し、［プレイリストに追加］をクリックします。

4. 既存のプレイリストまたは新しいプレイリストを選びます。

5. ［OK］をクリックします。

既存のプレイリストを選んだとき
検索した曲が、選んだプレイリストの末尾に追加されます。

新しいプレイリストを選んだとき
検索した曲が新たに作成されたプレイリストに追加されます。

プレイリストの曲順を入れ換えるには

曲を選んでドラッグ&ドロップします。

プレイリストの曲をソート（並び換え）するには

TITLE、ARTISTの文字をクリックすると、その項目についてアルファベット（A〜Z）、ひらがな、カタカナ、漢字の優先順位でソートされます。

プレイリストの見出し部分をクリックします。

ご注意

見出しの［No］部分をクリックしても、並びは切り換わりません。

プレイリスト内の曲をもう一度追加するには

同じまたは異なるプレイリストの中で曲をコピーすることができます。

1. **挿入する曲をクリックして選択します。**
2. **挿入位置にドラッグします。（マウスのボタンは押したまま）**
3. **Ctrlキーを押します。**
   マウスポインタに［+］マークがつきます。
4. **マウスのボタンを離します。**
   同じ操作をくり返して、何度でも追加できます。

プレイリストから曲を削除するには

1. **プレイリストで消去する曲をクリックし、［削除］（ ）をクリックします。**
2. **［削除］ダイアログが表示されたら、［はい］をクリックします。**

ご注意

プレイリストから曲を消去しても、ミュージックライブラリの同じ曲は消去されません。
ただし、ミュージックライブラリの曲を消去すると、プレイリストの曲も消去されます。

録音終了タイマーを設定する

FM/AM放送を録音するときに、放送終了時刻などに合わせて自動的に録音を終了させることができます。

1. ［LINE］パネルのワイド画面で［録音タイマーの設定］（ ）をクリックします。

録音終了タイマー設定の画面が開きます。

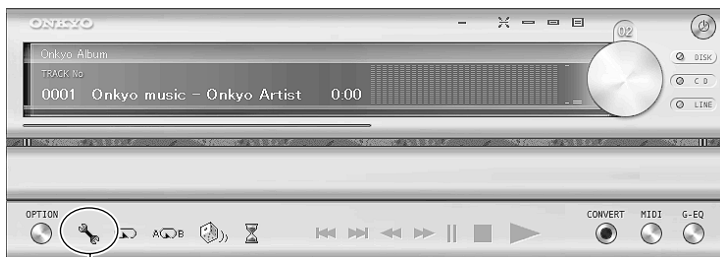
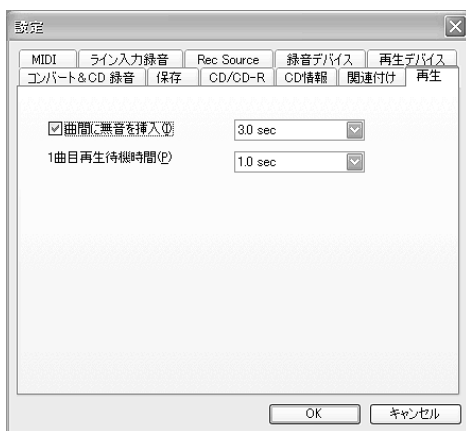
終了時刻がわかっているときに時刻を入力します。パソコンの時刻設定が正しいか確認しておいてください。

経過時間で設定するときは、何分後に終了するかを一分単位で設定できます。

2. ［設定］ボタンをクリックします。

TIMER RECの文字が青く変わります。
解除するときは［解除］ボタンをクリックします。TIMER RECの文字は黒くなります。

SETTING（環境設定）について

各パネル左下の［セッティング］をクリックすると設定画面が表示されます。設定できる項目は次の通りです。（　）内の数字は関連するページです。

再生

曲間に無音を挿入

音楽を再生する場合の曲間を選択します。MDレコーダーなどでの録音用に、曲間の無音部を設定します。

MIDI (P23)

MIDIデバイス

MIDIデバイスを選択します。

ボリュームコントロール

音量調節用のデバイスを選択します。

詳細設定

ポートごとのMIDIデバイス、割り込み間隔、エンジンの選択などを行います。

ライン入力録音 (P35)

シンクロ録音

自動保存

チェックすると、シンクロ録音時、設定した時間の無音が続くと、音源の再生が終了したと判断して自動的に録音を停止し、一時的にファイルが作成されます。保存したい場合は［SAVE］ボタンをクリックします。

自動曲分割

チェックすると、シンクロ録音時、設定した時間の無音が続くと、曲のつなぎ目と判断して自動的に曲番をくり上げます。

保存ファイル

ファイル形式

録音によって作成するミュージックファイルのファイル形式を選択します。

ビットレート

ミュージックファイルの転送ビットレートを選択します。

サンプリング周波数

ミュージックファイルのサンプリング周波数を選択します。

量子化ビット数

ミュージックファイルの量子化ビット数を選択します。

チャンネル

ミュージックファイルのMONO/STEREOを選択します。

作業フォルダ

初期設定はTEMPフォルダになっています。

Rec Source （P36）

ライン録音ソース設定

RECORDINGサブパネルの入力ソースボタンの設定を変更できます。

コンバート＆CD録音 （P33、47）

この項目はファイル形式ごとに説明します。

ファイル形式（MP3）

MPEG Audio Layer3/MP3Pro

MP3Pro（MPEG Audio Layer3）ファイルとは?

音楽ファイルの圧縮フォーマットのひとつ。Windowsの代表的な音楽ファイル形式WAVEなどと比較すると、ファイル容量が1/10程度に圧縮され、音質もほとんど劣化しないのが特長といわれています。

フォーマット

固定ビットレート（CBR）

MP3のファイルフォーマットを指定します。一般的には、ビットレートやサンプリングレートが高いほど高音質のMP3ファイルが生成されますが、ファイルサイズは大きくなります。

可変ビットレート（VBR）

MP3のファイルフォーマットを指定します。ここでは 圧縮率を選択します。

エンコード速度

録音パフォーマンスを、速度優先にするか音質優先にするかを指定します。

著作権フラグ

オンにすると、著作権を保護する情報がミュージックファイル情報に挿入されます。

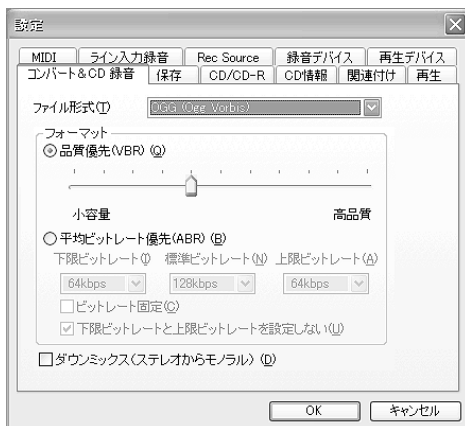
オリジナルフラグ

MP3形式でミュージックファイルを保存する場合にオリジナルであるかどうかを記録しておくことができます。

ファイル形式（OGG）

OGG Vorbis

OGG（Ogg Vorbis）ファイルとは?

ファイル容量はMP3やWMAと同程度で、可変ビットレートを基本としています。新しく開発されたオープンな汎用オーディオ圧縮フォーマットです。

フォーマット

品質優先（VBR）

OGG Vorbisを品質優先（VBR）に設定します。品質の程度をスライドバーで設定します。

平均ビットレート優先（ABR）

OGG Vorbisを平均ビットレート優先（ABR）に設定します。上限ビットレート、標準ビットレート、下限ビットレートを設定できます。「下限ビットレートと上限ビットレートを設定しない」にチェックを入れると、標準ビットレートだけを設定できます。

ダウンミックス（ステレオからモノラル）

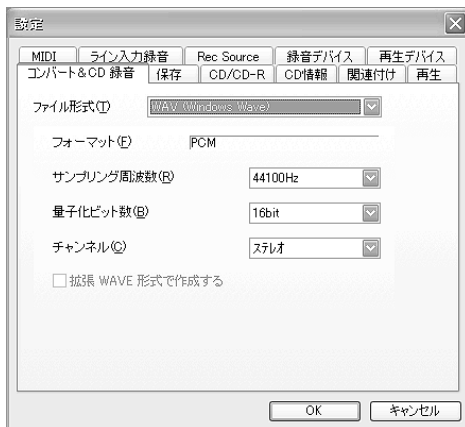
OGG Vorbisをステレオからモノラルへダウンミックスします。

ファイル形式（WAV）

Windows Wave

WAVファイルとは?

Windowsで標準的な音楽ファイルの形式。WAVEファイルと同じ。

音声データをサンプリングして、パソコン用のデータとして保存したファイルのことです。

形式

WAVEファイルのフォーマットを指定します。一般的には、ビットレートやサンプリングレートが高いほど高音質のWAVEファイルが生成されますが、ファイルサイズは大きくなります。

ファイル形式（WMA）

Windows Media Audio

WMA（Windows Media Audio）ファイルとは?

Microsoft社が開発した音楽ファイルの圧縮フォーマットのひとつ。

音楽CD並みの音質と、デジタル著作権を主張できることが特長になっています。

フォーマット

WMAファイルのフォーマットを指定します。一般的には、ビットレートやサンプリングレートが高いほど高音質のWMAファイルが生成されますが、ファイルサイズは大きくなります。

ご注意：操作パネルや［ミュージックファイル情報］ダイアログボックスのフォーマットには、選択したビットレートと微妙に数値が異なるビットレートが表示される場合があります。例）選択時：128 Kbps → 表示数値：129 Kbps

SETTING（環境設定）について

保存 （P32、47）

保存先
録音によって作成されるミュージックファイルの保存先を指定します。ネットワーク上のフォルダも選択できます。
初期設定は、CarryOn Musicがセットアップされているフォルダの中のMyMusicフォルダです。

サブフォルダ
CarryOn Musicは、保存先のフォルダにアルバム名やアーティスト名のサブフォルダを作成して、その中にミュージックファイルを保存します。ここでは、サブフォルダの作り方を指定します。
なし...サブフォルダは作りません。録音されたミュージックファイルはすべて［保存先］で指定したフォルダの中に保存されます。
Album...アルバム名のついたサブフォルダを作ります。ミュージックファイルはアルバムごとのフォルダに保存されます。
Artist-Album...アーティスト名のついたサブフォルダを作り、さらにその中にアルバム名のついたサブフォルダを作ります。ミュージックファイルはアルバムごとのフォルダに保存されます。

ファイル命名規則
［CD］パネル上で音楽CDからリッピングすることによって作成されるミュージックファイルのファイル名のつけ方を指定します。［LINE］パネル上で録音した場合は適用されません。
「01-Track01」のようなファイル名になります。ファイル名には必ずTitle（タイトル）かTrack No.（曲番）が必要です。

コンバート先
変換したファイルの保存先を指定します。

CD/CD-R （P50）

CD ドライブ
音楽CDを録音・再生するCDドライブを指定します。

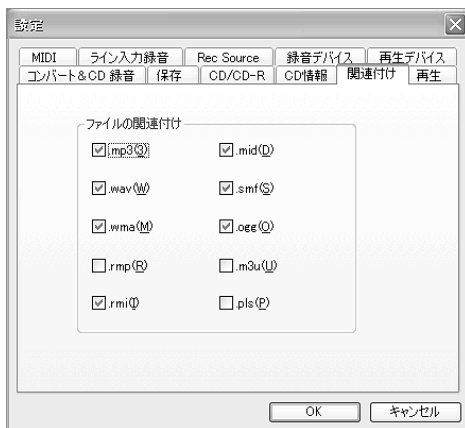
CD-R設定
CD-RまたはCD-RWのドライブ、書き込みスピード、テスト書き込みの有無、オーディオCDプリギャップサイズ（CD書き込み時の曲の頭におく無音時間）を設定します。

作業フォルダ
初期設定はTEMPフォルダになっています。

CD情報 （P26、30）

CD TEXT設定
CD TEXTディスクを使用する場合はオンにします。
自動的に情報を取り出す／取り出さない、また、優先言語の指定もここで行います。

CDDB設定
CDDB®を使用する場合はオンにします。
自動接続の指定やProxyサーバーの設定もここで行います。

関連付け

ファイルの関連付け
チェックした拡張子のミュージックファイルはダブルクリックしてCarryOn Musicを起動し、再生することができます。

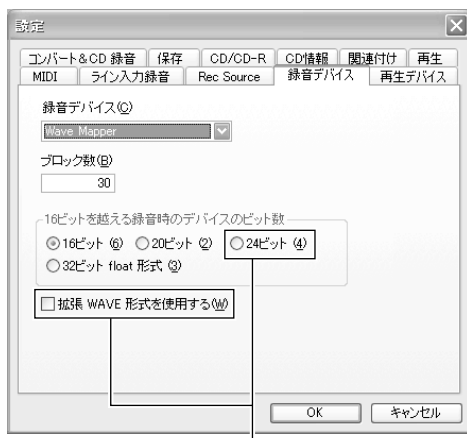
再生デバイス/録音デバイス

CarryOn Musicは最大24bit/192kHzでの録音再生に対応しています。
（お手持ちのサウンドデバイスも最大24bit/192kHzに対応している必要があります）

24bitに対応するファイル形式はWAVEファイル（最大24bit/192kHz）、WMA Pro（最大24bit/96kHz）の2種類です。

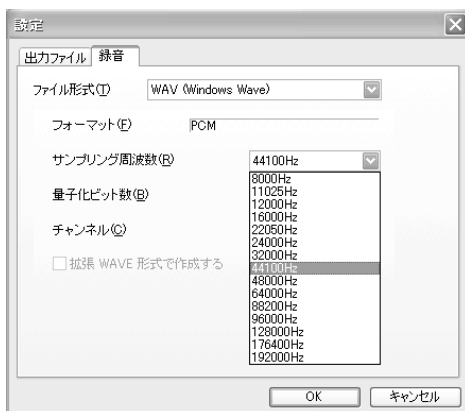
お手持ちのサウンドデバイス（PCIサウンドボード、USBオーディオ等）が20bit以上の録音再生に対応している場合の設定方法

CarryOn Musicのセッティングアイコンをクリックして設定ウィンドウを表示させます。再生デバイスのタブをクリックし、ご使用中の再生デバイスの最大ビット数を選択します。同様に録音デバイスのタブについても設定を行ってください。

24bitでの録音・再生を行う場合は、「録音デバイス」、「再生デバイス」設定で、デバイスのビット数「24bit」をチェック、「拡張WAVE形式を使用する」をチェックしてください。

24bitでの録音・再生を行う場合は、ここをチェックします。

録音するファイルのビットレート・サンプリングレートを変更する方法

CarryOn Musicでは、音楽CDからのリッピングおよびコンバート（ファイル変換）とライン入力録音の2箇所でビットレート・サンプリングレートを設定できます。各設定を変更する場合はセッティングアイコンをクリックし設定ウィンドウを表示させ［コンバート&CD録音］および［ライン入力録音］のタブメニューで設定を行ってください。

音楽CDからのリッピング及び他サウンドフォーマットからのコンバート（ファイル変換）を行う場合は、個別に設定を行うことが可能です。DISK-CONVERT画面もしくはCD-REC画面で各行を右クリックしプロパティを選びます。録音タブを選択して個別に録音したいファイル形式に設定してください。

ショートカットキー一覧

動作	キー	DISK	CONV.	CD	CDREC	LINE
<共通>						
再生	Alt+X	○	×	○	○	○
	TEN Key_5	○	×	○	○	×
	X	○	×	○	○	×
一時停止	Alt+C	○	×	○	×	×
	C	○	×	○	×	×
	TEN Key［.］	○	×	○	×	×
停止	Alt+V	○	×	○	○	○
	V	○	×	○	○	×
	TEN Key_0	○	×	○	○	×
OPTION メニュー	Alt+F	○	○	○	○	○
設定	Ctrl+9	○	○	○	○	○
5 秒後へ移動	TEN Key_9	○	×	○	×	×
5 秒前へ移動	TEN Key_7	○	×	○	×	×
Volume Down	P	○	×	○	○	×
Volume UP	O	○	×	○	○	×
終了	Alt+F4	○	○	○	○	○
次の曲	Alt+B	○	×	○	○	○
	B	○	×	○	×	○
	TEN Key_6	○	×	○	×	○
前の曲	Alt+Z	○	×	○	×	○
	TEN Key_4	○	×	○	×	○
	Z	○	×	○	×	○
ALBUM TITLE 編集	Alt+T	×	×	○	×	○
ARTIST 編集	Alt+A	×	×	○	○	○
Gracenote Lookup Disk	Alt+D	×	×	○	○	×
取り出し	Alt+O	×	×	○	○	×
すべて解除	Alt+M	×	×	×	○	×
すべて選択	Alt+N	×	×	×	○	×

ショートカットキー一覧

動作	キー	DISK	CONV.	CD	CDREC	LINE
＜DISKのみ＞						
ALBUM	Alt+3	○	×	×	×	×
ALL	Alt+1	○	×	×	×	×
ARTIST	Alt+2	○	×	×	×	×
PLAY LIST Down	TEN Key_DOWN	○	×	×	×	×
PLAY LIST Up	TEN Key_UP	○	×	×	×	×
ライブラリ検索	Ctrl+F	○	×	×	×	×
ミュージックファイル情報	Alt+E	○	×	×	×	×
	Alt+TEN Key_RETURN	○	×	×	×	×
ミュージックファイル登録	Ctrl+O	○	○	×	×	×
＜LINEのみ＞						
マーク追加	M	×	×	×	×	○
再生・停止	SPACE	×	×	×	×	○
＜その他＞						
DISK	Ctrl+3	×	○	○	×	○
CONVERT	Ctrl+6	○	×	×	×	×
CD	Ctrl+2	○	×	×	○	○
CDREC	Ctrl+5	×	×	○	×	×
LINE	Ctrl+4	○	×	○	×	×
パネルサイズ標準 / ワイド	L	○	×	○	×	×
ノーマルウィンドウ	N	○	×	○	×	×
シャッフル	S	○	×	○	×	×
リピート	R	○	×	○	×	×
設定［録音］	Alt+TEN Key_RETURN	×	×	×	○	×

困ったときは（FAQ）

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

インストールに関して

他のライティングソフトをインストールした状態でCarryOn Musicをインストールすると正常に動作しない

- 他のライティングソフトの影響でCarryOn Musicの動作がおかしくなる場合があります。
  基本的に各社ライティングソフトは複数のライティングソフトをインストールすることを推奨しておりません。先にCarryOn Musicをインストール後、他のライティングソフトをインストールすると正常になる事例があります。
  また、もしCarryOn Musicのライティング機能を使用しない場合はインストール時の「ランタイム モジュールのセットアップ」画面で“CD-Rライティングエンジンのランタイム”のチェックをはずしてください。

CarryOn Musicを再インストールした場合、録音したミュージックファイルやライブラリ情報も消去されてしまいますか？

- ミュージックファイルもライブラリ情報も、そのまま残ります。削除が必要な場合は別途、エクスプローラから削除してください。

CarryOn Musicを「アプリケーションの追加と削除」からアンインストールした場合、録音したミュージックファイルやライブラリ情報も消去されてしまいますか？

- ミュージックファイルもライブラリ情報も、そのまま残ります。削除が必要な場合は別途、エクスプローラから削除してください。

音声に関して

音声が出ない

- Windowsのタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックして「音の調節」パネルを開き、ミュートにチェックが入っている場合は、チェックを外してください。出力レベルが小さい時は、音声出力のレベルを適正な値に調整してください。
- 外部アンプやスピーカーをパソコンに接続している場合は、それらの接続を確認してください。また、外部アンプやスピーカーの電源、音量調整を確認してください。
- 音声出力デバイスが正しいか確認してください。コントロールパネルからオーディオデバイスを確認するパネル（下記）を開きオーディオタブをクリック、使用するデバイスを選んでください。
  Windows XP：サウンドとオーディオデバイス
  Windows 2000：サウンドとマルチメディア

左右のバランスがかたよっている

- Windowsのタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックして「音の調節」パネルを開き、バランススライドバーで調整してください。
- 外部アンプやスピーカーをパソコンに接続している場合は、それらのバランス調整を確認してください。

音が途切れる

- 音声出力、入力中にCPUに負担のかかる作業を行っている場合は、控えてください。
- 音声の再生中に他のUSB機器を抜き差しすると、音声が途切れることがあります。
- CPUが推奨スペック（→6ページ）を満たしていない場合は、期待した性能を発揮できない場合があります。また、CPUがスペックを満たしている場合でもCPUが非常に高負荷の状態である場合には音が途切れることがあります。この場合は、他のアプリケーションをすべて終了させてください。また、録音の際のエンコード速度やフォーマットを変えて試してみてください。
- 「システムのプロパティ」から「デバイスマネージャ」を開き、ディスクドライブの中から音楽ファイルを保存しているハードディスクとCD-ROMドライブをダブルクリックしてプロパティを表示します。設定タブをクリックして、オプションのDMAチェックボックスにチェックを入れてください。

困ったときは（FAQ）

DISKパネルに関して

ミュージックファイルを移動したら、CarryOn Musicで再生できなくなった

- CarryOn Musicに曲を登録するとファイルの格納位置情報も登録されます。
- ファイルを移動すると登録情報と実際のファイルの格納位置が異なるため、再生できなくなります。
- DISKパネルで移動した曲の登録を［削除］で削除してから、再度登録しなおしてください。

ハードディスク内の曲を複数登録したい

- フォルダごとDISKパネル上にドラッグ＆ドロップすれば、その中にあるミュージックファイルをまとめてCarryOn Musicに登録できます。

PLAYLIST行を広げたい（狭めたい）が、方法がわからない

- DISKパネルでPLAYLIST行を広げるには、PLAYLISTのタイトルバーをドラッグします。「PLAYLIST」の文字近辺にアイコンを持っていけば、上下の矢印のアイコンに変わりますので、そのアイコンに変わったときにドラッグしてください。

DISKパネルでプレイリストの曲順を入れ換えたい

- プレイリストに登録された曲順は、移動したい曲を選択した状態で上下ボタンをクリックすることで変更できます。なお、ライブラリの曲順については変更できません。

複数の曲を選択したい

- ライブラリからプレイリストへの登録などで複数の曲を選ぶ際は、連続した複数のトラックを選択するときは、Shiftキーを押しながらクリック、連続していない複数のトラックを選択するときは、Ctrlキーを押しながらクリックしてください。

CONVERTのファイル変換形式が目的の形式と異なる

- CONVERTの処理を行う前に、あらかじめ「セッティング」の「コンバート＆CD録音」から標準の変換形式を目的の形式に変更後、CarryOn Musicを再起動してください。これにより標準の変換形式が更新されますので、この後でCONVERTを行ってください。
- なおCONVERTの画面で各行を選択した状態で、プロパティをクリックして開いたウィンドウの録音タブで、個別に変更することもできます。

DISKパネルのCONVERTでCD TEXT対応の音楽CDを作成したい

- CarryOn MusicではCD TEXT対応の音楽CD作成はサポートしていません。CD TEXT対応音楽CD作成に対応したCD-R/RWライティングソフトを別途ご用意ください。

CarryOn Musicでライン録音したデータをCD-Rに焼くときに、各トラック間に無音部を入れたい。あるいは無音部の長さを調節したい

- 「セッティング」のCD/CD-Rタブを開き、「オーディオCDプリギャップサイズ」で調整することができます。初期値は2秒です。

MP3形式のCDを作成時に上書き確認のダイアログが出てくる

- 同じファイル名のMP3ファイルを同じフォルダに書き込む事はできませんので、この場合、どちらかの一方のファイルを選択するか、元のファイル名を変更してください。

困ったときは（FAQ）

LINEパネルに関して

録音ができない

- LINEパネルからRECORDINGパネルを開き、使用中の入力ソースが正しく設定されているか確認してください。

- コントロールパネルからオーディオデバイスを確認するパネル（下記）を開きオーディオタブをクリック、録音に使用するデバイスを選んでください。
  Windows XP：サウンドとオーディオデバイス
  Windows 2000：サウンドとマルチメディア

長時間のライン入力録音の時、2GB（約200分）以上のWAVEファイルを録音できない

- WAVEファイル形式の制限で、2GBまでしか録音はできません。

LINEパネルでRECORDINGサブパネルを開いても何も表示されない

- LINEパネルのRECORDINGサブパネルはお使いのパソコンで現在使用中のサウンドカードのミキサー情報を取得して表示させますが、録音ミキサーをサポートしていないUSBオーディオ製品をご利用の場合は、何も表示されません。この場合、RECORDINGサブパネルは使用せず、USBオーディオのハードウェア側で録音ソースの切り換えや録音ボリュームの調整などの設定を行ってください。

LINEパネルで録音レベルインジケーターが動作しない

- レベル調整について、録音レベルインジケーターは録音待機状態にしないと動作しません。録音の準備ができたら、SYNCHROボタンをクリックしてSYNCHROインジケーターを消してください。次に録音ボタンをクリックすると録音待機状態になり、録音レベルインジケーターが動作します。調整後、この状態で再生ボタンをクリックすると録音がスタートします。

LINEパネルでシンクロスタートや、自動曲分割がうまく働かない

- シンクロスタート、自動曲分割は実際の音声に反応して動作していますのでご使用のサウンドカードや録音音源自体にノイズが混入している場合は、うまく動作しません。この場合、曲分割については録音終了後、手動で曲分割を行ってください。

LINEパネルでの編集結果が実際のミュージックファイルに反映されない

- ファイル分割や、フェードイン/アウトなどの編集後は必ず右上の［SAVE］ボタンをクリックして、結果を保存してから終了してください。［SAVE］ボタンをクリックするまでの間は何度でも編集のやり直しが可能です。

- シンクロスタート、自動曲分割は実際の音声に反応して動作していますのでご使用のサウンドカードや録音音源自体にノイズが混入している場合は、うまく動作しません。

MusicIDでタイトルが取得できない、もしくは間違った曲のタイトルばかりが取得される

- 外部音源（カセットやMDなど）から録音する場合、イコライザ機能があればすべてOFFにしてください。特にポータブル機器の場合、標準で低音ブーストなどが設定されている場合があるため、必ずOFFにした状態で録音を行ってください。

- MusicIDでは前奏部分約20秒前後からタイトルを認識しますので、必ず前奏部分から録音してください。

- ラジオからのエアチェックなどで前奏時に楽曲以外の音声が被る場合は正しいタイトルの取得は出来ません。

- 曲頭の無音時間が長い場合は正しいタイトルの取得ができない場合があります。曲間のマーカーを発音直前位置まで移動させた状態で再度取得を試してみてください。

- 音源自体にノイズが含まれている場合、録音レベルが極端に小さすぎる場合や大きすぎる場合は正しくタイトルの取得ができない場合があります。

すでにハードディスクにあるミュージックファイルにもタイトルを取得したい

- LINEパネルを表示させた状態でMP3、WAVEファイルをパネル上にドラッグ＆ドロップすれば録音後の状態と同じになり、既存のミュージックファイルでもタイトル取得することができます。

- CarryOn MusicではMP3、WAVE以外のファイルへのタイトル取得には対応していません。

CDパネルに関して

CDパネルでCDのトラック名が表示されない

- 他のCD-R/RWライティングソフトをインストールした際に、CarryOn Musicが使用する特定のファイルが書き換えられている可能性があります。

CONVERTのファイル変換形式が目的の形式と異なる

- CONVERTの処理を行う前に、あらかじめ「セッティング」の「コンバート＆CD録音」から標準の変換形式を目的の形式に変更後、CarryOn Musicを再起動してください。これにより標準の変換形式が更新されますので、この後でCONVERTを行ってください。なおCONVERTの画面で各行を選択した状態で、プロパティをクリックして開いたウィンドウの録音タブで、個別に変更することもできます。

困ったときは（FAQ）

CD-Rのライティングに関して

CarryOn MusicでミュージックファイルがCD-R/RWに焼けない。DISKパネルのFORMATでCDAが出てこない

- 書き込みスピードは低速で書き込みを行う。
- テスト書き込みのチェックをはずす。
- メディアの種類を変える。（メディア不良の可能性）
- 他のライティングソフトをアンインストールする。
- ドライブが壊れている場合があります。ドライブメーカーにご相談ください。

その他

CarryOn Musicの発色がおかしい、画面に収まりきらない

- CarryOn Musicの必要なディスプレイ設定は「800×600 ハイカラー以上」です。これ以下のディスプレイ設定で使用されると本来の発色がされず、またパネルのサイズによっては画面に収まりきれない場合があります。

CarryOn Musicのボリュームはホイールマウスに対応していますか？

- CarryOn Musicのボリュームはホイールマウスに対応しています。ボリュームのエリア上にマウスのカーソルを置くことでボリュームのアップダウンが行えます。

全曲リピートは、できますか？

- REPEATボタンを1回クリックすると1曲リピートで、2回クリックすると全曲リピートになります。

CPUの負荷を軽減するため、スペアナ（スペクトラムアナライザー）を停止したい

- DISKパネル、CDパネルで再生中に表示されているスペアナ（音の強弱に合わせて上下しているグラフィック）は［OPTION］をクリックしてウィンドウを開き、［スペアナの表示］のチェックを外すことで停止することができます。

CarryOn Musicを常に手前に表示させたい

- 他のアプリケーションを使用している間でも、常にCarryOn Musicを手前に表示させたい場合は、［OPTION］をクリックしてウィンドウを開き、［常に手前に表示］をクリックしてチェックをつけてください。

「G-EQ」「MIDI」パネルのボタンが消えてしまい使えない

- スーパーワイドサイズとミニサイズ（最小）では、サブパネルを開くことができません。標準サイズ、もしくはワイドサイズの状態にするとボタンが表示されますのでこの状態で開いてください。

エンコード速度が、高速、標準、高音質とありますが、なにが違うのですか？

- 高音質で行うと、より忠実なエンコードをすることができます。エンコード後のファイル容量はほとんど変わりませんが、高音質を選択すると、エンコードに時間がかかります。

CarryOn Music ver. 2.70からアップグレードしたが、以前のライブラリ情報をそのまま利用したい。

- ライブラリ情報の保存場所が異なるため、新しい保存場所へコピーする必要があります。15ページ「ヒント」をご覧になり、CarryOn Musicフォルダへコピーしてください。

製品の故障により正常に録音ができなかったことによって生じた損害（CDのレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

お客様ご相談窓口

電話でのお問い合わせ：
ナビダイヤル 0570-01-8111
（全国どこからでも市内料金で通話いただけます）
または 072-831-8111（携帯電話、PHS から）

サポート時間：月～金曜日
（土日祝、弊社休日を除く）
9:30 ～ 17:30

FAX でのお問い合わせ：072-831-8124

手紙でのお問い合わせ：
〒 572-8540
大阪府寝屋川市日新町 2 番 1 号
オンキヨー株式会社
カスタマーセンター宛

WEB でのお問い合わせ：
http://www.jp.onkyo.com/wavio/support/

製品に関する最新情報などは：
ホームページアドレス
http://www.jp.onkyo.com/
http://www.jp.onkyo.com/wavio/
をご参照ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　（　　）

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル☎0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または☎072(831)8111（携帯電話、PHSから）

D0410-1

SN 29343965